

W e b 配布版

転載する場合は許可が必要です。

平成 1 7 年度

「郷土日野」指導事例集

第 1 集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会



日野第一小学校



日野第二小学校



日野第三小学校



日野第四小学校



日野第五小学校



日野第六小学校



日徳小学校



平山小学校



日野第八小学校



百草台小学校



滝合小学校



日野第七小学校



南平小学校



旭が丘小学校



平山台小学校



東光寺小学校



三沢台小学校



仲田小学校



夢が丘小学校

日野の郷土教育の充実に向けて

日野市立教育センター
所長 篠原 昭雄

日野の地域に根ざした教育は、“ひのっ子きょういく”とも呼ばれます。日野市教育委員会の基本方針にも「地域に対する誇りと愛着を育む」ことが掲示されているように、学校教育において、子どもたちに“郷土ひの”の自然や風土、文化や歴史に親しませ、郷土の特色や“かけがえのなさ”を知り、郷土に対する誇りと意識を育てることが極めて重要と考えられます。ことに近年日野市では、“新選組フェスタ in 日野”をはじめ各種のイベントも開催されて市民の関心が高まり、また、これを契機に諸資料の発掘も進み、“ひのっ子”“日野人”の学習と意識の啓発が期待されるようになっていきます。

このような動きの中で、学校教育において郷土教育の充実を図るには、具体的にどのように進めたらよいのでしょうか。これまでは、副読本や観察・体験学習などによって、主として社会科や理科、総合的な学習の時間などの教科指導に“郷土ひの”の諸事象を取りいれて学ばせてきました。

しかし、近年日野市の学校教育でも、教科等の教育内容の増加にも拘らず教科指導時間の削減などから、郷土教材を取り入れた学習時間が限られたり、若手や日野市に赴任されて間もない先生などが多くなり、“郷土ひの”に関する教材研究が不足したりして、郷土教材の活用が十分になされていない状況です。

このことは、研究委員会で行った日野市の小・中学校の先生方のアンケートの結果にも明示されています。このような状況の中で郷土教育をさらに充実させるためには、郷土諸資料から、各学校・学年段階や教科等において活用できる郷土教材の発掘や開発を行い、先生方がそれを参考にして指導計画の作成や授業に活かせるような事例を数多く提供することが必要と考えられます。

教育センターでは、開設時から日野の郷土教育充実を重要な調査研究課題とし、ふるさと教育係で進めてきました。昨年度は環境教育に視点を当てて、学校版 IS014001「ひのっ子エコアクション」導入の研究を行いましたが、本年度は、学校における日野の郷土教育の在り方の究明に力点を注ぎました。

具体的には、(1) 各教科等における“郷土ひの”の教材開発とそれを活かす学習指導法の研究 (2) 日野市の学校副読本や郷土諸資料の活用の仕方 (3) 地域の教育資源活用の観点から「郷土資料館」「歴史館」「図書館」等の活用についての研究などです。

本研究委員会では、前述のように、“ひのっ子教育”の充実を図ることをねらいにして、授業における郷土諸資料の教材としての活用と郷土（地域）の教育資源の活用の方途を研究するとともに、授業に活きる指導事例集を作成しました。指導事例は、本研究委員会を構成する先生方が、郷土教材の開発と授業に即した研究を進め、その成果を委員会で検討し合い、日野の各学校で授業に活用できるようにまとめたものです。その点でも、先生方の実践に基づく汗の結晶とも言える貴重な事例集と考えます。是非とも各学校・教科等において、日野の郷土教育の充実に向けて活用していただくことを期待いたします。

最後になりましたが、本研究を支えてくださった委員の先生方、日野市教育委員会及び学校教育関係の方々には心からお礼申し上げます。

※目次のページ番号はWeb版ではうっていません。

目 次

あいさつ 日野の郷土教育の充実に向けて

所長 篠原 昭雄

〈はじめに〉 研究主題設定理由と研究の構想 1

事 例

事例1 郷土日野の特色・用水（豊田用水）の活用 1 1

事例2 副読本「ひのっ子新選組探検隊」の活用 1 6

2-1 第5学年総合的な学習の時間「ひの新選組まつりを調べよう」 1 7

2-2 第6学年社会科「明治維新をつくりあげた人々」 2 1

事例3 日野市郷土資料館の活用 2 4

3-1 郷土資料館展示見学例 2 4

3-2 出前いっちょ 実物資料を用いた出張授業 2 6

3-3 「デリバリー博物館」資料館外で行う資料展示 2 8

3-4 職場体験 2 9

3-5 中学校における日野市郷土資料館の活用事例 3 0

事例4 中学校社会科副読本「のびゆく日野」の活用を考えた中学校社会科の
指導計画例 3 5

副読本「のびゆく日野」を活用した社会科地理指導案例

(1) 身近な地域を調べよう 4 1

(2) 人口が集中する首都圏 4 2

(3) 日野の産業について調べよう 4 4

事例5 校章・校歌の活用 4 6

事例6 社会科に生かせる郷土教材のワンポイント

单元名 第5学年社会科 自動車をつくる工業 4 8

单元名 第6学年社会科 東京オリンピックと新しい日本 5 0

資 料

日野市郷土資料館小中学校のための利用案内 5 5

出張授業・出張展示のご案内 5 7

市立図書館利用のご案内 5 9

〈おわり〉 6 1

〈はじめに〉

平成16年刊行「統計日野」より、「人口の自然動態率、社会動態率」を読むと、平成13年度以降の日野市の人口推移は、他地区への転出者数に比べて、転入者数が増加してきており、昨年度になるとその増加率は著しく、今後さらに新しい住民が累増することが推測できます。

このような日野市の住民の変化にあって、学校教育においても郷土日野の意識を涵養し、日野に親しみを持ち、日野を愛する心を育てることは重要と考えます。その点において、昨年度、土方歳三“新選組のふるさと日野”を、本年度は平山武者どころ“平山季重の道”のイベントを市が開催し、その歴史を掘り起こし、郷土日野の諸資料並びに施設の整備を行った意義は大きく多くの市民や、子どもたちに「地域の歩みをもっと知ってほしい」という願いや、「住んでいる地域のことを知りたい」という願いに応え、自分たちの暮す郷土日野の歴史を知り、振り返り、考えるよい機会になったのではないのでしょうか。

また、この時に日野市教育委員会の基本方針「日本人としての自覚を深め、国や地域に対する誇りと愛着を育む」を具体化するものとして、教育センター事業に郷土教育推進研究委員会がスタートしたことは、このような教育課題に応える重要な役割を担うものと受け止めています。

本委員会は、次の3つの事項

1. 各教科等における郷土日野の教材開発及び学習指導法の研究を行う。
2. 日野市の学校副読本や郷土諸資料の活用について調査・研究する。
3. 「日野市郷土資料館」「新選組のふるさと歴史館」等の活用について研究する。

について調査・研究を行い、学校教育において日野の自然や歴史・文化・伝統を生かした郷土教育を充実・発展させ、「郷土意識を育み、社会の一員としての自覚をもって生きるひのっ子」の育成を目指すものです。

日野の児童・生徒が手にしている郷土日野の教材資料としては、小学生では社会科副読本「私たちのまち日野」、中学生では社会科副読本「のびゆく日野」、小学生・中学生に「ひのっ子新選組探検隊」があります。

そこで、本委員会では研究にあたって、「郷土」の意味と、「地域」の意味を明確にするとともに、

- 1 前述の資料をまずは充分活用できるようにすること。
- 2 郷土日野の特色に関する郷土資料を収集し、市内どの学校でも学べるようにすること。
- 3 今年度4月、教育センターと同じ建物の中にできた郷土資料館の資料や教育力を、より有効に活用すること。

に視点をあて、各学校が授業に活用できる指導事例集を作成することにしました。

研究主題 一郷土意識を育む指導のあり方一

(郷土日野の特色を生かした指導事例集の作成)

I 研究主題設定の理由

1 学校における郷土教育の必要性

子どもたちの生活する社会は、豊かさと表裏して、人と人とのつながりが希薄になり、身近であるはずの地域がその機能を果たせなくなっている。そして、少年非行の多発、暴力事件、いじめ等に心暗くする現実から思うことは、子どもたちの社会性の未熟さである。子どもたちの豊かな社会性を育成するためにも身近な地域の事象や人々の働きを、歴史的な側面から、人と人、人と自然との相互の関わりにおいて、その意味を考える郷土教育の積み重ねは大切と考える。

学校では、①郷土のもつ教育的役割の重要性を見直し、子どもたちに郷土日野の特色を生かした自然や歴史・文化・伝統にふれる機会を広げ、郷土が自分を支える心の拠り所であり、生きる基盤であることを学び感じとらせる。②郷土に関する適切な資料を授業に積極的に導入し、地域社会を単に住んでいる場所という意識から、心が通い、自信や誇りがもてる郷土意識へと変える。

以上のことを目標におき、意図的、計画的な指導を継続化させたい。

2 郷土日野に関する市内の研究実績（平成 14、15、16 年度 幼稚園・小学校・中学校関係）

〈テーマの例〉

- ①小学校校長会「地域に根ざした教育の推進と校長の指導性」
- ②中学校教育研究会社会科「地域を生かした指導法の研究」
- ③小学校教育研究会社会科「地域に密着した社会科学習」一目野市の地域素材の教材化－
- ④小学校教育研究会理科「自ら意欲をもって取り組める理科学習」
－身近にみられる理科教材の開発－
- ⑤ひのっ子教育 21 地域教材開発部会「日野の特色を生かした地域教材の開発」
- ⑥各学校の研究 潤徳小「わたしたちのまちから学び、行動する子ども」 平山小「地域に学び育つ子の育成」 滝合小「感じ考え行動する子どもの育成－身近な地域環境を生かして－」
仲田小「自然とふれ合い豊かな心を育てる」 平山台小「地域と共に育つ心豊かな児童の育成」

〈研究のまとめ抜粋〉

- ①地域に対する意識の持ち方が変わり、地域を活用するようになった。
 - ②地域の人々、施設に親しみをもつようになり、感謝の気持ちがもてるようになった。
 - ③教師が日野という地域のよさや特性を知ることによって「教育の中で生かしたい」の意欲につながった。
 - ④学習を通して、地域に見守られているという温かさを、子どもに知らせることが大切と考えた。
 - ⑤地域の人々との出会いにより地域を身近に感じ、地域で生きていく意識を高めた。
 - ⑥地域とのネットワークから、発展した学習を行うことができた。
- これらの先行研究をもとに、「子どもの郷土意識を育む」指導のあり方を探究し、事例にまとめる。

3 郷土教材の収集・開発及び活用に関する調査

各小・中学校の回答を集計した結果を次のようにまとめ、本委員会の課題とする。

- ①小学校・中学校の社会科副読本等、副読本の活用法を周知する。
- ②浅川、多摩川、用水等、日野の特色「緑と清流」「水の郷」に関する教材資料の多面的な活用を考え、市内どの学校でも利用できる資料を検討したい。
- ③郷土資料館等の利用の仕方、出前授業についての理解を図る。
- ④郷土教材のワンポイント活用を考え、その活用の日常化を図る。

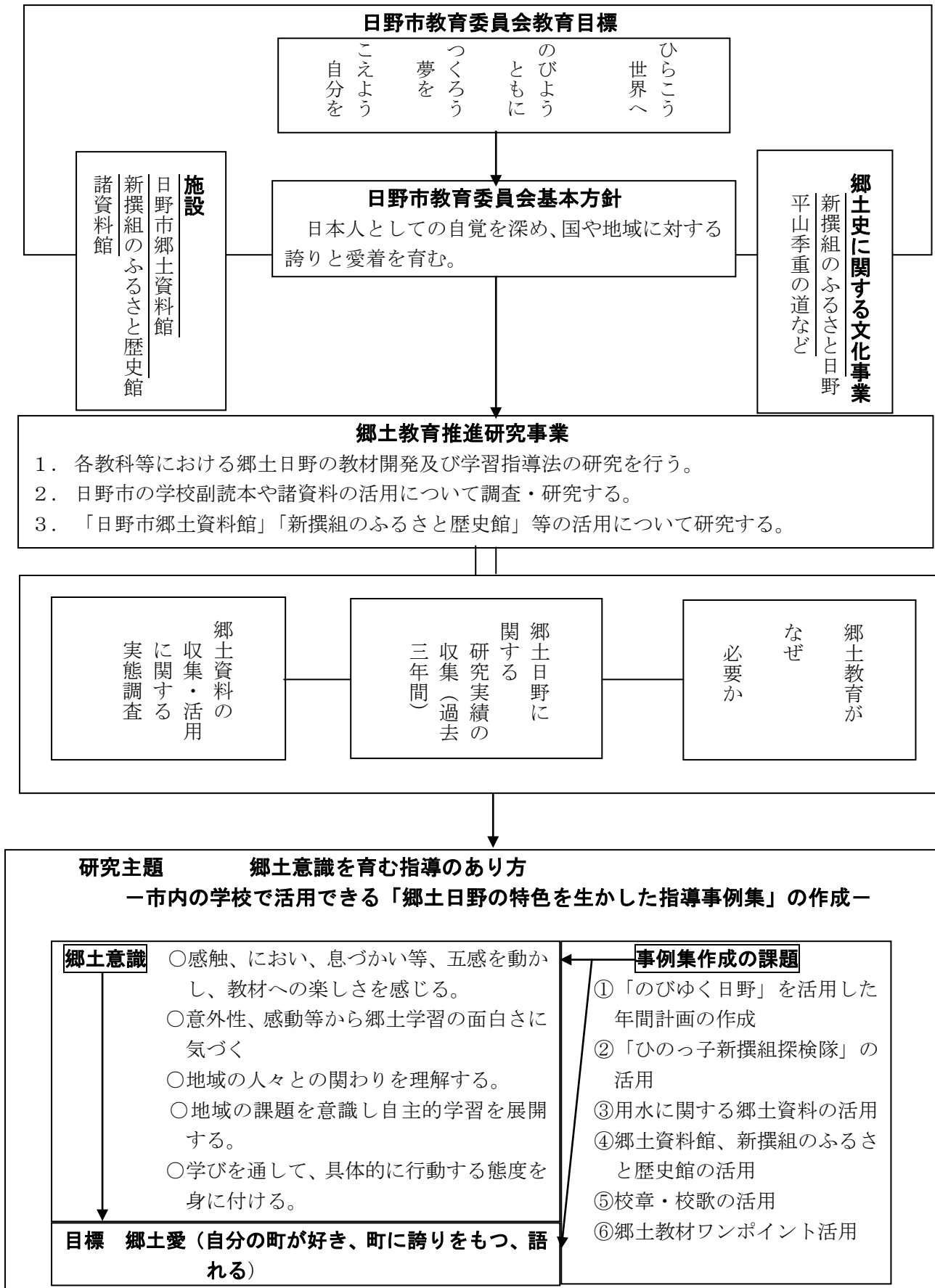
4 日野の特色を生かした指導事例

市内の学校が郷土教育を推進するために、各学校においては、この事例集から「日野の特色を生かした郷土教材」並びに指導の手がかりをつかみ、自校の地域との類推、対比、関連等を図り、さらに発展させていただきたい。

〈郷土日野の特色について〉

- ①「緑と清流」の日野 平成 7 年国土庁より「水の郷」の指定を受ける。浅川と多摩川が流れる日野、かつては、網の目のように張り巡らされた用水路と田圃は日野の原風景。人々の働きと努力による歴史的変遷と、自然との共存を考えた今後の発展を探究する学習を展開したい。
- ②「新選組のふるさと」の日野 昨年度、まちをあげて新選組フェスティバルを開催、新選組に関する資料の整備が行われる。児童生徒には副読本「ひのっ子新選組探検隊」が配布されたが、活用しているところは少ない。この副読本の活用の一例を提示したい。

Ⅱ 郷土教育推進研究の構想



Ⅲ. 郷土教材の収集・開発及び活用の状況とその考察

7月中旬、質問5項目について市内の全小・中学校より回答を得ることができた。回答の結果をもとに、郷土教育推進研究が取り組む内容や、郷土資料の整備等について検討を行う。

1 学校副読本について使用学年、分野、教科名等について回答下さい。(単位・校)

	小3		小4		小5		小6		中↓		中2		中3	
	社会	総合	社会	総合	社会	総合	社会	総合	社会	総合	社会	総合	社会	総合
社会科副読本	19	1	16	1					8	1	2		2	
ひのっ子新選組探検隊	2		1				6	1	1	1	1	1		1
学校作成の副読本、周年関係	8	1	4	4	1	2	2	2						
地域教材資料カード	2		1				6	1			1			

考 察

- ①小学校社会科副読本は、3・4年生用に作成されているが、4年生が活用していない学校が3校ほどある。3・4年生の副読本活用については周知していく必要がある。
- ②中学校社会科副読本は、地理・歴史・公民の3分野で構成されているが、2年生・3年生で活用している学校が少ない。郷土日野に関する教材が授業にどのように活用できるのか、その指導計画案を提示することで、副読本活用の手がかりにする。
- ③学校独自に作成をした周年関係の資料や、児童・生徒向けの副読本の有効活用が各学校に望まれる。
- ④地域教材資料カードは昭和60年、61年にかけて編集したものだが、内容的には現在でも活用できるものであるが、ほとんど活用されていない。「散逸している」と回答した学校が3校ある。

学校副読本のあり方、活用等についての学校からの意見

小学校ーよくまとまっていて使いやすい。身近な土地、施設が写真として掲載されていて学習意欲を高める。市で作成したものを活用する方向をしっかりと進めていくことが大切であり、「私たちの東京」を購入する学校が多くなると「私たちの日野」は使われなくなってしまう。
中学校ー特になし

2 1の質問に示した副読本の他に、どのような郷土教材を授業に導入していますか。

学年	教科・分野	郷 土 教 材 名	教材の形態
小1	生活	黒川清流公園の動植物	見学
	生活	多摩川周辺の植物	観察
	生活	水辺の生き物（よそう森堀公園）	体験（水路清放課協力）
小2	生活	黒川清流公園の動植物	見学
	生活	日野郵便局	見学
	生活	大呂寺	見学
小3	社会	子どもと楽しむ公園マップ	地図
	社会	梨畑、畑、水田、商店街の櫓子	見学、説明
	社会	地域の昔の暮らし	講話（高齢者社会人）
	社会	いろりの部屋	実物
	総合	昔の道具を使おう	資料館見学、観察
	総合	多摩川探検	見学、観察
	総合	多摩動物公園、丘陵公園他	見学、観察
小4	社会	クリーンセンターと浅川処理場	見学
	総合	豊田用水探検	見学、観察、聞き取り
	総合	老人ホーム「豊かな里」訪問	交流、見学
	総合	平山城址公園の秘密	観察、調査
	総合	平山陸稲と林丈太郎	記念碑見学（写真、文）
	総合	日野手話サークル	体験

学年	教科・分野	郷土教材名	教材の形態
小5	社会、総合	水田、日野用水、多摩川	体験、講義
	社会	日野自動車工場	見学、説明
	総合	新選組探検	見学、体験
	総合	わら細工	体験
	総合	探ろう田圃のパワー	見学、体験
	理科	浅川の流れ	観察
	道徳	平山陸稲と椎丈太郎	読み物、記念碑
小6	社会	七つ塚古墳と周辺の畑、七つ塚フィールドワーク	見学、発掘体験
	社会	新選組フェスタ	展示、パンフレット
	社会	火おこし（古代人の暮らし）	体験（文化スポーツ課協力）
	総合	地域の宝探検	見学、お話
	総合	日野の渡し、万願寺の渡し、万願寺一里塚	郷土カルタ
	総合	浅川を遊べる川に	観察、体験
	総合	水辺の楽校	観察、体験
	総合	都立多摩療護園	交流、見学
	総合	ブラインドウォーク、車椅子探検	体験（福祉協議会協力）
	理科	浅川の水質検査	観察、調査
中1	総合	職場訪問	市内各事業所
	社会	平山季重	宗印寺見学
	社会	郷土を知る	日野市白地図
中2	総合	保育園訪問	保育体験
	総合	職場訪問	市内各事業所
	総合	障害を知る（車椅子、ブ`ラインド体験）	体験、聞き取り（福祉協議会協力）
中3	総合	生命を知る	市内医師の話

考 察

- ①社会、特に総合的学習の時間に市内多くの学校が郷土教材を生かした学習を展開している。従って、郷土教育が目指すねらいもふまえた指導計画を作成し、実践化したい。
- ②施設・人物、川・用水の多面的な活用を考え、市内どこの学校でも生かせる郷土教材資料を検討したい。

3 日野市郷土資料館の活用法についてお答え下さい。

＜平成16年度において授業の中で郷土資料館を利用しましたか。また、その理由を教えてください＞

	利用した学校数・利用しなかった学校数	そ の 理 由
小 学 校	利用した (4/19) 校	社会科学習に活用した
		昔の人々の暮らしに関する資料が豊富
		昔の暮らしを見学、実物にふれることができる（体験学習の重視）
		調べ学習に活用した
		完全の興味関心を高めながら説明していただける
		6年社会科、総合的学習の一環として適当であった
		社会科見学のコースとして市役所に近いところにあった
		4年生の2・3学期、社会科の昔探しで利用した
	利用しなかつた (5/19) 校	学校から遠く行きにくかった
		郷土資料館がどのようなところであるかをはっきりと把握していなかった
		展示内容、活動について知らないものが多く、利用の仕方がわからない
		16年度は周年行事で、時間的に組めなかった
		自校の資料で充分だから
中 学 校	利用した (1/8) 校	総合的な学習の時間に活用、暮らしを支える施設、暮らしを豊かにする施設を学習する
	利用しなかつた (5/8) 校	生徒数が多く移動だけでも困難
		時間にゆとりがない
		日野市にきたばかりでわからない
		時間がないうえ、長期休茶巾の宿題として扱った

考 察

- ①「ふるさと博物館」改め、今年度4月に「日野市郷土資料館」として新たに開館。この機会に資料館活用の手引きを作り、市内の全学校に周知を図ることが必要である。
- ②距離的・時間的に利用できない学校については、これまでも行ってきてはいるが、資料館が学校に出向いて行う出前授業、デリバリー博物館についての理解を図ることが必要である。

	活 用 の 形 態	小 学 校				中 学 校		
		3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
見学・体験を行った場合	展示品を中心にして解説を依頼した	10			2	1		
	児童生徒の課題解決に関した資料を中心に依頼した	1	1					
	学芸員と教員とでＴＴによる指導を行った	1						
	職場訪問、職場体験をした					1	1	
出前授業を行った場合	学芸員が中心となって授業を進めた	2						
	教員が中心となって授業を進めた	1		1				

<利用した学校におたずねします。どのような利用のしかたをされたかをお答え下さい。>

考 察

- ①見学・体験を行った場合、小学校の半数が郷土資料館の展示にそって、学芸員の説明をきく形態をとっている。郷土資料館の機能を生かした学習展開をすることで、児童・生徒の関心意欲をより高めるものとする。
- ②郷土資料館による出前授業については、今後、その利用の増加が考えられる。郷土資料館側のスケジュールの中で効果的に実施するには、学校側の主体的な計画と諸準備が必要と思われる。
- ③10校に近い小学校・中学校が、時間的な面や距離的な面から利用していない。②で述べた出前授業方式等の他に、教育センターとしてもＣＤ、ビデオ、インターネット等での資料提供ができるよう検討していきたい。

各学校で郷土資料館を利用したときの授業のねらい、テーマ例

小学校3年生	「昔の人々の生活について道具を通して考えよう」 「昔の人々が生活に使った道具を調べよう」 「日野の暮らしを豊かにする施設を見学しよう」 「日野の昔の暮らしについて知ろう」
小学校5年生	「米の脱穀と昔の道具体験」
小学校6年生	「縄文時代の学習」（火おこし体験） 「新選組について知る」
中学校1年生	「日野市内地域についての学習」（調べる）

4 教育センターでは郷土教材についての収集・開発を考えています。どんな教材がどのような形態で備えられているとよいですか。

〈小学校〉

- ①農業・漁業・交通等の民具、昔の生活道具、各時代の住まいの様子が具体的に捉えられるように。（触れる、手にとって調べられる、名称や使い方等の説明をつける）
- ②歴史的な流れがわかるように、日野のことに興味をもてるように、暮らしの変化がわかるように、比較できるものをおいて違いがわかるような展示を。

- ③日野市の地形の変化の様子が一目でわかるような写真。
- ④6年歴史教材で使用可能なものから資料化を。
- ⑤社会科の5・6年で地域と関連した写真資料等。
- ⑥歌、踊り等も文化財と考え、保存を考えてほしい。
- ⑦文化財等の映像や写真、昔の日野の様子等。
- ⑧縄文期の土器や暮らしの様子等の教材の貸し出しを。
- ⑨多摩川の化石や多くの遺跡からの出土品の展示、また、新選組にしばったものの展示。
- ⑩多摩の横山に関連したこと。
- ⑪地域に生えている草花を日野市のHPに。
- ⑫子どもに分かりやすいパンフレット、自然に関わる実物の標本の収集を。
- ⑬地域で仕事体験をさせていただけるような店、事業所等を知りたい。地域のために働いた方を紹介したものや、お話を聞ける陽がほしい。
- ⑭活用できる資料の一覧表を。(連絡先等も含め)
- ⑮学校で利用しやすい状態、形態を。(貸し出しを含む、入れ物・持ち運び)
- ⑯各学校で独自に作成した訓読本について、各学校に目録を作って情報提供を。HPで公開していただくとありがたい。

〈中学校〉

- ①日野の地域の変化を読み取るように、年代順に地形図を常備してほしい。
- ②総合学習やボランティア部の活動として程久保川とその周辺のクリーン活動を行っている。程久保川の資料がほしい。
- ③教科書の内容を見ていただき、単元ごとに供給可能な教材をリスト化する方法は取れるでしょうか。そうすることで、今あるもの、あればよいと思うものが見えてくると思う。
- ④映像資料でコンパクトにまとめられたものがあるとよい。

考 察

- ①学校が必要とする郷土日野に関する資料を、センターから発信できるように、収集・開発を計画的に進めていくことが求められている。日野の特色を生かした郷土教材の収集・開発を検討する。
- ②「小学校・中学校社会科副読本」と「ひのっ子新選組探検隊」副読本は市内の全小・中学生たちが手にし、郷土日野を理解する最も基本となる郷土教材資料である。全体的に低い活用状況から思うことは、如何に活用できるのか、その活用法を提示していくことである。
- ③郷土教育を推進するためには各学校の意見を参考にし、資料の収集・開発を計画的に行いたい。映像資料（ICT関係等）については教育センター全体の運営との関わりで進めていくことになる。
- ④郷土資料館との関連を念頭において、郷土資料館で取り組めること、センターとしてできることを明らかにしながら、できるところから具体的に手がけていきたい。
- ⑤郷土教材が常時展示でき、児童・生徒が調べ学習をする時に利用できる施設・教室がほしいが、現段階では難しい。昔の生活用具類の展示については郷土資料館並びにデリバリー博物館（一小、三小、百草台小、滝合小）等の活用を図りたい。

5. 「日野市郷土資料館」、「新選組のふるさと歴史館」を利用するにあたっての希望及び考えがありましたら書き下さい。

＜小学校＞

- ①学校の様々なニーズに応えられる情報を収集し、教えていただけるとありがたい。
- ②どんなものが展示してあり、どういった話ならしていただけるのか、わかるとありがたい。
- ③解説する方がついてくださると助かる。
- ④これからも、「地域を知る、調べる、学ぶ」学習に学芸員の先生のお力をいただきたい。
- ⑤遠方の学校は利用できないので、出前授業を積極的に行ってほしい。また、ゲストティチャーのような形で活用したい。

- ⑥移動図書館のような感じで、いくつか希望の展示物を学校に持ってきていただいて活用してみたい。
- ⑦昔の生活道具等の使用方法を、小3年でもわかるように解説・展示していただけるとよい。
- ⑧ペリー来航、日米和親条約、日米通商修好条約等の流れと、幕府の政治の勧告を展示する中で、新選組の動きを知らせてほしい。
- ⑨多摩が新選組のスタートであることを誇りに思えるような歴史館であってほしい。全国の新選組ファンの中心であってほしい。(史実と離れてしまわないように)
- ⑩日野市の充実した情報をHPで見ることができたらありがたい。

<中学校>

- ①調べ方学習の協力施設として大変お世話になっている。どの分野にも素晴らしい学芸員の方がいらっしゃる。郷土に誇りを持ち、自分たちのふるさとについて深く学べるよう、展示会場、展示方法にも充分に予算を組み、充実したものにしていただけるとありがたい。どの分野にも偏り無くお願いしたい。
- ②歴史的分野の「地域の歴史」の調べ学習と、2年生の夏休みの課題にしたいと思う。そのときに生徒の相談相手になってほしい。
- ③「日野市郷土資料館」は立地条件が実態に合わない。各学校は郷土の学習に多くの時間を割くことができない。各学校と施設が知恵を出し合ってデリバリー方式の実践が現実的だと思う。

考 察

- ①学校が何をやりたいのか、郷土資料館、新選組ふるさと歴史館に相談をする等、学校の積極的な姿勢が大切である。一方、学校側からの情報を聞くことも必要である。
- ②施設を積極的に活用してほしい。見学の場合、出前授業の場合、いずれも資料館まかせにするのではなく、学校が主体になって学芸員の専門性を生かした指導が望まれる。
- ③今年度新たに発足し、多くの課題はある。
一般市民向けの展示については、企画面を開催し、内容の充実・変化に努めているので、これらの機会を先生方にも是非利用してほしい。

事例

事例１ 郷土日野の特色・用水（豊田用水）の活用

日野市内の用水は、多摩川から２か所、浅川から８か所、程久保川から２か所取水している。大きくは日野用水上堰、日野用水下堰、豊田用水、上田用水、新井用水、平山用水、南平用水、上村用水、高幡用水、向島用水、一宮用水、落川用水等があげられる。

用水の長さは幹線、支線を含めて 1981 年には 218 km あったものが、2002 年には 170 km に減少。区画整理事業地内では田を灌漑していた支線はなくなり、幹線だけが残る傾向にある。

豊田用水は平山橋下の堰から取水され、豊田・川辺堀之内へと流れる用水。江戸期に築造されたといわれる。数カ所から湧水が流れ込んでいるため日野市の用水の中で一番水質がよい。用水の水は上田用水へ、余った水は排水口から再び浅川にもどる。

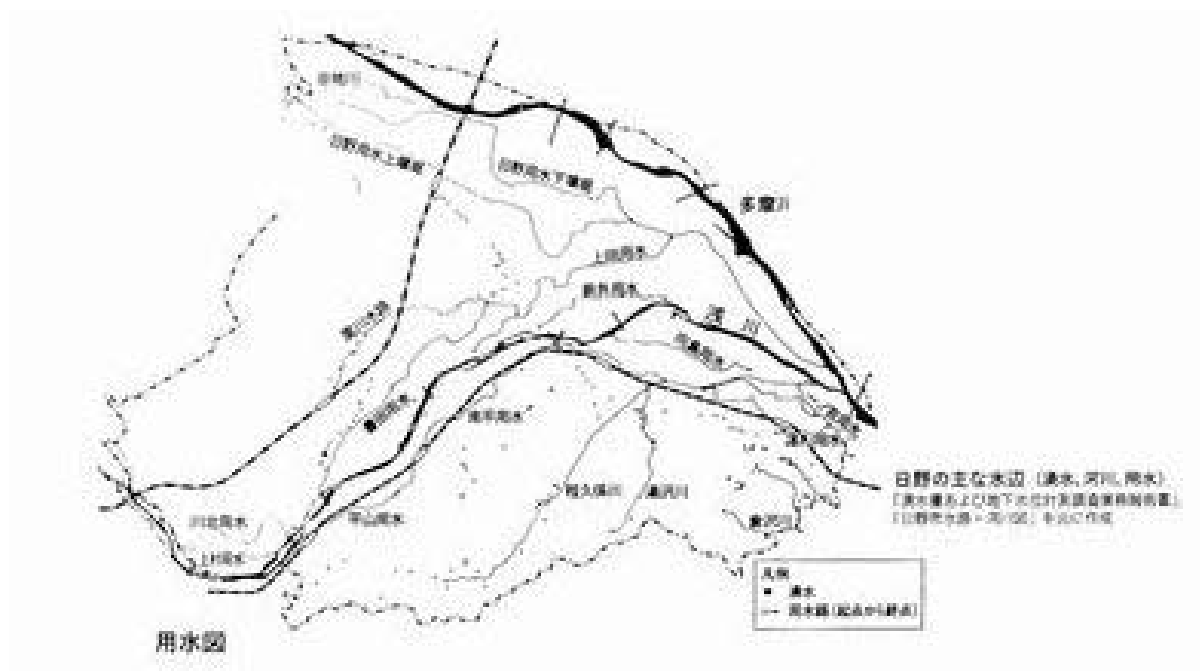
かつての豊かな水田地帯の広がり、網の目のように延びている、いく筋もの用水路の景観は住宅地の増加とともに大きく変貌してきている。

日野第二小学校の正門前には、明治 43 年から大正 2 年にかけて、豊田用水組合の人々の大きな努力によって成し遂げられた「耕地の改良と整備」の功績を、後世に伝える豊田耕地整理記念之碑がたっている。

現在、水田利用はわずかとなってしまったが、環境面においての用水の役割を重視。自然と人間とが共有できるよう、生態系に配慮した水辺づくりが行われ、郷土日野の特色、「水の郷」「緑と清流」の役割を担っている。身近にある用水を歴史的な視点からも取り扱い、地域環境への人々の配慮について考える学習をととして、「水の郷」「緑と清流」の日野を感得することができる郷土教材である。



豊田耕地整理記念之碑
(副読本 P 48)



1 単元名 第4学年総合的な学習の時間「生き生き豊田用水情報局」

2 単元の目標

(1) 教科がねらう目標

○身近にある用水から、一人ひとりが課題を見つけ、解決の見とおしをもって調査活動を行い、まとめたものを聞いている対象者にわかるように発表する。

(2) 郷土学習がねらう目標

○豊田用水と地域の人々と関わりを歴史的な視点にもふれて調べ、郷土日野の特色である「水の郷」の役割を担う視点から豊田用水の発展と配慮を考える。

3 研究主題との関連

泳いでいる鯉などの生き物に目を凝らす、魚を釣る、用水脇を通っての登下校など、用水は子どもたちの日常の生活圏にある。また、用水組合による用水の掃除や生活用水として活用している地域の人々の姿、埋められていく用水路や水が流れていない用水路などは、当たり前の景観としてとらえている。

そこで、豊田用水がどのような願いで、いつ頃でき、どのように利用されてきたのか、地域の人々の働きを知り、郷土日野の特色を担う現在の役割をもとに、これからの用水について深く考えさせ、自分たちのまちに誇りがもてる子どもを育成したい。

4 単元の指導計画

時間	学習内容・活動	留意点・資料
1 2	1 「豊田用水情報局」学習テーマを知る。 ① 豊田用水の話を聞き、人々の生活とのつながりを考える。 ② 水路図を見て、広がりとその役割を考える。 ③ 豊田用水の写真を見て、自分の生活体験を話し合う。 ④ 豊田用水の情報をまとめ、自分の学習テーマ（第一次）を作る。	・ 二小の学区には豊田用水があることに気づかせ、自分たちの生活とどんなつながりがあるかを考えさせる。 ・ 学区周辺の用水図 ・ 日野市の地図 ・ 学区域の地図 ・ 用水の写真 ・ 調べたいことを出し合い、グループに分かれる。 ・ 用水の生き物 ・ 用水を作った人 ・ 馬頭観音について ・ 日野市の用水の数 ・ 洗い場について ・ 用水の水温 ・ 水草 ・ 用水の取水口について ・ 米作りと水

	2 豊田用水を歩いて調べる。 ① 見学・体験をする。 取水口と排水口 湧水から用水 幹線から支線 用水の淵の様子 （石、コンクリート、土） 生き物と汚濁 ② 見学体験のまとめ、学習テーマ（第二次）を作る。	・説明を聞きながら、用水見学をする。 ・浅川からの取り入れ口（平山橋の下） ・川辺堀之内地区（田圃に残っている風景） ・中央図書館下の湧水 ・豊田用水が上田用水に流れ込むところ ・調べたいことを深める。
1 3	3 学習テーマをもとに、グループや個人で調べ、発表の準備をする。 ① 計画 ② 調査活動 ③ 発表準備	・調べる内容によって、見学に行くグループと、校内で調べるグループにわかれる。 ・見学：グループごとに課題に合った場所できまり、写真を撮ったり、生き物を観察したり、各地点の水温を測ったりする。 キッドを使って、水質検査をする。 ・校内：インターネット、図書館の本、辞典類を使って、調べる。 ・調べ方の検討と、調べる項目を付け足したり、新たに考えたりする。
4	4 発表会を開く。 各グループでまとめたものを発表する。 5 「日野市の河川、用水路図」から、郷土日野の特色を知り、これからの用水を考える。	・それぞれのグループで調べたことが、クラス全体に伝わるよう発表を工夫させる。 ・発表の視点 ・調べた動機 ・調べた内容 ・調べた感想 ・豊田用水について振り返る。 ・用水に込められた人々の願いや思いを知る。 ・日野のまちに残る用水に愛着を持ち、大切にしていこうとする気持ちを持たせる。

5 郷土教材を導入した授業展開とそのねらい

(1) 本時のねらい

日野市全域にわたる用水の広がりから、郷土日野の特色が「緑と清流」、「水の郷」といわれるわけを理解し、これからの用水と自分とのかかわりを考える。

(2) 本時の展開

学習活動・内容	留意点・資料
1 豊田用水の発表会を想起する。 ・発表のテーマや、その概要 ・テーマ相互の関連性	・発表したものの中から、本時の課題につながる内容等はカードにして準備し、掲示できるようにする。 幹線と支線 日野市の用水の数等
2 本時の学習課題 「日野市全体では、用水はどのくらいあるのだろうか」について予想する。 ・低地（沖積地）の広がりから ・昔の水田地帯から ・多摩川、浅川、程久保川の流れ	・これまでの調べ学習や生活経験、日野市の地形図、昭和30年頃～昭和40年代の土地利用図をもとに考えさせる。 ・多摩川、浅川、程久保川等の川が流れていることに着目させる。川のそばは土地が低いこと、昔は田圃が広がっていたことに気づかせる。
3 市全体の水路図を見て、感想を発表する。 ・用水の幹線 日野用水、豊田用水 ・幹線から延びる支線	・用水路名や、取水する川をおさえる。 ・郷土日野の特色（緑と清流、水の郷）を伝える。
4 使われていない用水の写真を見て地域の変化の様子を話し合う。	・現在使われていない用水の写真の提示から、その周辺の景観を話し合わせる。 ・自分たちの調べてきた用水ではどうであったかを思い出させ、市のいろいろなところで用水がなくなってしまったり、使われなくなってしまったりしていることに気づかせる。
5 用水管理組合の人の話を聞いて、水辺作りの意図を知り、自分とこれからの用水との関わりについてまとめる。	・用水管理組合の人の話を聞かせ、行政の工夫や地域の人の願いを知る。 ・今ある用水を大切にしようという気持ちが芽生えたか、これから用水をどのようにしていこうと考えたかを発表させる。

6 児童生徒の活動の姿と課題

子どもたちは用水が身近な存在であることから、意欲を持って学習に取り組む事ができた。学習前は、「遊び場としての用水」と言うイメージが強かったが、見学をしたり、調べ学習をしたりしたことにより、用水に関する知識を得て、用水を大切にしていこうとする気持ちが芽生えてきた。

昔は生活の場として必要とされていた用水が、今は下水が入って汚れてしまっているところもあった。また、田んぼがなくなり、用水としての役目が終わってしまった箇所もあった。しかし、用水の歴史、用水と人との関わり、今の様子を調べる学習経緯の中で、日常、魚を捕ったり、人々が眺めてやすらいだりできる用水に愛着を感じはじめてきていることが子どもたちの言動から受け止められた。

また、用水にかかわっている人たちや、地域の人たちから話を聞く機会は、「郷土日野」への思い、願いを学習する上で大事な郷土教材になることを実感した。

課題としては、子ども達が興味関心を持ったことを調べるのに、資料が充分でなかったり、あっても難解で読みこなせなかったりすることが多かったので、子ども向けの資料の整理が必要である。

人材 市 緑と清流課 用水管理組合 地域関係者

資料 『用水を総合的な学習に生かす～日野の用水を例として～』

小坂克信著 2004年5月16日 財団法人とうきゅう環境浄化財団発行 玉川上水と分水の会増刷発行

『地域教材 日野の用水』 用水の会著 1995年3月3日

『用水で遊ぼう！日野の用水攻略法』 1998年3月31日

日野市発行 日野市建設部水路清流課編

『水の郷 日野 身近な水辺の保全と再生』 1995年3月

日野市建設部水路清流課発行

『日野用水路・河川図』 1992年3月 日野市役所



地図からみた豊田地区耕地整理の様子（昭和15年・日野町明細全図より）

地図からみた豊田地区耕地整理の様子（昭和15年・日野町明細全図より）

事例 2 副読本「ひのっ子新選組探検隊」の活用

この副読本は、「[新選組のふるさと日野]について、小・中学生のひのっ子に理解を深めてほしい、ふるさと日野の歴史に興味、関心をもってほしい」という願いからつくられ、市内各小・中学校の4年生以上の学年に配布されている。

日野には上方歳三や井上原三郎の生家、日野宿名主佐藤彦五郎と本陣、日野宿と甲州道中等、新選組と深く関わる多くの史跡や寺社がある。この副読本は以上の資料館や史跡・寺社を取り上げ、新選組をとおして、江戸時代から明治時代へかけての日野や激動の日本歴史を身近に感じながら楽しく学べるように編集されている。この副読本を指導計画に位置づけ活用することにより、郷土意識を育み、ふるさと日野への誇りと愛着をもつことができると考える。

今、日野市は新選組をととして、まちおこしを進めている。5月11日の上方歳三の命日や「ひの新選組まつり」の新選組隊上コンテストには全国からファンが駆けつけてくる。平成拓年NHK大河ドラマ「新選組！」の放映により、「新選組のふるさと日野」が全国に知れわたった。このことがきっかけで新選組に対する理解の仕方も変わってきた。市民のなかにも新選組について学びたい、関係史跡を歩いてみたい、ボランティアでガイドをしたいという機運が高まってきた。少なくとも、朝敵・逆賊・テロリスト集団という偏見は消え、「勤皇佐幕の立場」「あくまで武士道を追究した」「近藤・土方は、農民の出身だったが本当の武士よりも武士らしく生きた」という認識が変わってきた。全国のファンの多くは、その生き方に共鳴しているのである。その後、新選組関係者は自由民権運動の中心となったり、日野の政治や産業、教育に指導力を発揮し、現在の日野市発展の基盤をつくったのである。私たちは自信と誇りをもって新選組を語り、教材化を図っていきたい。

そのため、副読本「ひのっ子新選組探検隊〜歩こう調べよう ふるさと日野〜」の有効な活用が望まれる。学校だけでなく、個人研究や親子で史跡めぐり、地域の史跡ハイキング等にも活用していた
だきたい。

探検MAP (ひのっ子新選組探検隊 P.36 参照)

- ①日野宿本陣 ②土方歳三資料館 ③井上源三郎資料館 ④八坂神社
⑤宝泉寺 ⑥石田寺 ⑦とうかん森 ⑧高幡不動尊 ⑨犬昌寺
⑩新選組のふるさと歴史館



事例 2－1

郷土教材名 「新選組と日野とのかかわり」

1. 単元名 第5学年総合的な学習の時間「ひの新選組まつりを調べよう」(実施時期：4月)

2. 単元の目標

①教科がねらう目標

- ・「ひの新選組まつり」を調べることを通して、歴史的な人物や建造物などに関心を持つ。
- ・パソコンなどを活用し、「ひの新選組まつり」について調べることができる。

②郷土学習がねらう目標（郷土意識の育成、郷土資料活用）

- ・「ひの新選組まつり」を調べることを通して、土方歳三や井上原三郎、佐藤彦五郎など幕末に活躍した人物が日野とかかわりがあったことを知り、郷土日野に関心を持つ。
- ・日野にある寺社が歴史的にも意義のある建造物であることを知り、関心を持つ。

3. 研究主題との関連 一郷土意識をはぐくむ指導のあり方一

○なぜ取り上げたのか

日野市は新選組の土方歳三・井上原三郎の出身地である。また、新選組を支援していた日野宿本陣の名士佐疎音五郎がいた場所である。新選組は、幕末、京都の市中警護を行ったり、池田屋事件をはじめとした京都の治安を守る役目を負ったりしていた。また、江戸幕府がほろび行く中で、最後まで信念をつらぬき、幕府側として戦った。日野出身の土方や井上が作り上げた新選組は、歴史の中でその名を残すほどの存在となった。

郷土教育として新選組を取り上げることで、「日野の出身者が歴史に名を残す働きをした」

「最後まで信念をつらぬいたすごい人がいた。」などの思いを持たせることができ、郷土日野を愛する意識を育てられると考えた。

○研究テーマとの関連

5年生時点での新選組の取りあつかいでは、郷土意識を育む方策として「多くの人々が関わってきていることを知る」「観察、調査など、課題を意識し、自主的学習を展開する」という内容を受け、「ひの新選組まつり」を取り上げることにした。土方歳三の介日にあわせて行われている「ひの新選組まつり」は歴史はまだ浅いものの、日野と新選組とのかかわりを後世に伝えようと毎年行われており、新選組ゆかりの寺社などをパレードしている。

「ひの新選組まつり」を取りあつかうことで、日野市には新選組関係の人が多くいたこと、また、新選組に関係した場所がたくさんあること、日野市は新選組と深く関係かおるため、そのことをこれからも伝えていきたいと考えていることなどをつかませ、児童の郷土意識を育まぜていきたいと考え、教材として取り上げることにした。

《ひのっ子新選組探検隊 P.31・32参照》



パレード写真



高幡不動境内の土方歳三像

4. 郷土教材を導入した授業展開とそのねらい

①目 標

- ・ひの新選組まつりについて調べ、日野と新選組との間わりに関心を持つ。

② 本時の指導（2時間扱い）

i ねらい

- ・ひの新選組まつりについて調べ、日野と新選組との間わりに関心を持つ。

ii 展 開 **下の表は、書き直すか、スキャナがよいかもしれない**

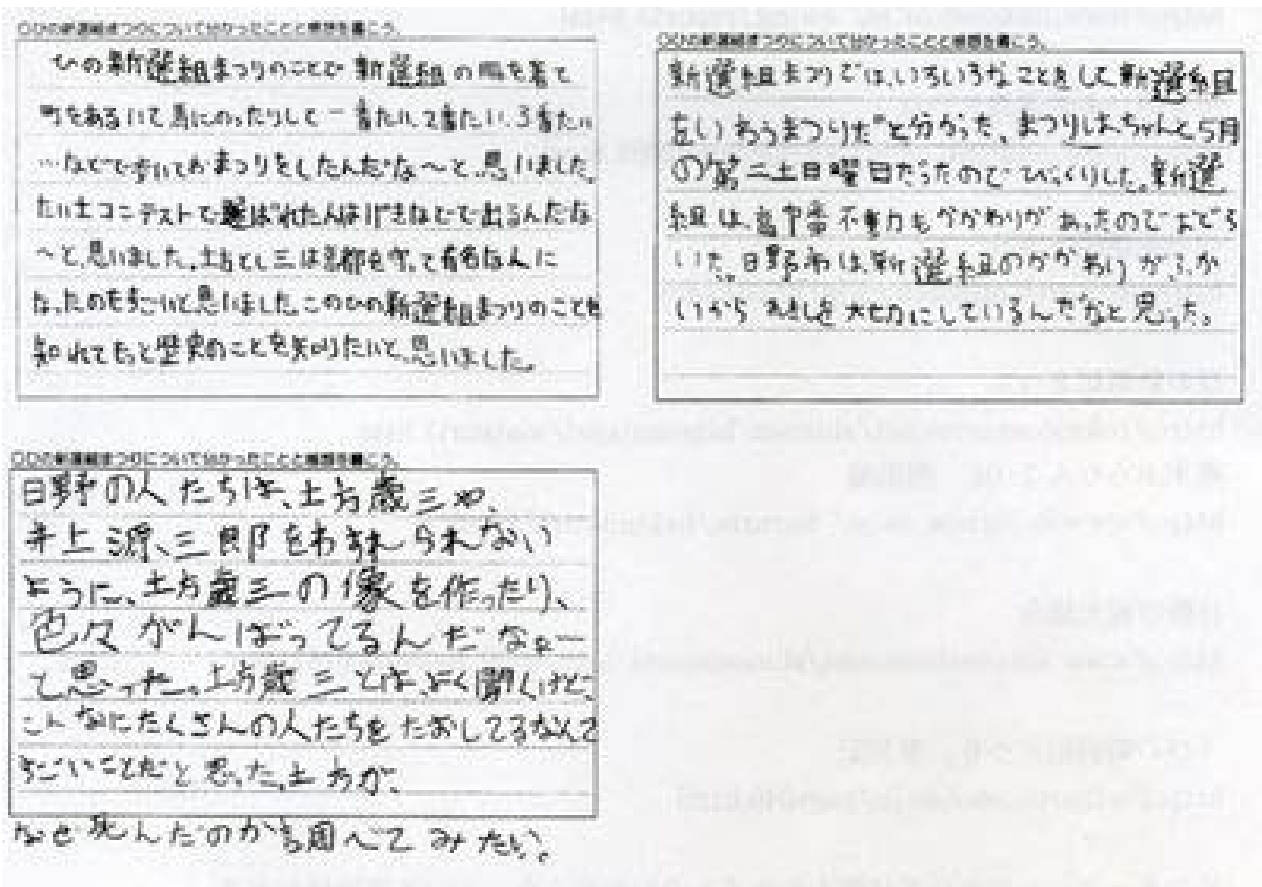
学習活動と内容	・学習資料 ○留意点
1. 幕末の新選組と日野とのかかわりについて知り、ひの新選組祭りがあることを知る。 ・新選組は江戸時代、京都の警備をしていた。 ・土方歳三や近藤勇は農民出身 ・佐藤道場では、天然廻心流の剣術を稽古していた。	○新選組の活躍について簡単に触れて紹介する。(土方歳三、井上原三郎、佐藤彦五郎、高幡不動尊など)・新選組パレードの映像 ※日野の地図と出身地や寺社の位置
日野新選組まつりはどんな祭りだろう	
2. 図書資料やインターネットを使って調べる。 ・新選組祭りではパレードが行われている。 ・土方歳三の介日にあわせて行われている。 ・新選組に関係のあるお寺や場所を通っている。 ・ひの新選組祭りには、いろいろな人が参加している。	※「ひのっ子新選組探検隊」や「ひの新選組まつり情報（WEB）」 ○歴史の内容やこまかい史実には深入りせず、どんな祭りなのか、関係のあるお寺や場所はどんなものなのかを調べさせるようにする。
3. 「ひの新選組まつり」について調べたことを発表しあう。 ・新選組まつりではパレードが行われている。 ・土方歳三の命日にあわせて行われている。 ・新選組に関係のあるお寺や場所を通っている。 ・ひの新選組まつりには、いろいろな人が参加している。 ・まだ歴史は浅いがこれからも続いていく祭り。	○ワークシートに友達の発表を聞いてわかったことをメモするようにする。
4. 「ひの新選組まつり」について感想を書く。 ・日野市は新選組と関係のある場所がたくさんあっておどろいた。 ・日野から土方歳三などの有名人がいたことにびっくりした。 ・今度「ひの新選組まつり」を見てみたいと思った。	○感想を書くのに悩んでいる児童には、発表を聞いてどう思ったかなどの声かけをして書かせるようにする。

③評 価

- ・ひの新選組まつりについて調べ、日野と新選組との間わりに関心を持つことができたか。

5. 児童生徒の活動の姿と課題

〈児童の感想から〉



〈成果と課題〉

5年生段階で、新選組が活躍した幕末時期の歴史的背景やその後の歴史について理解することは大変難しいと思い、導入の段階で「土方歳三は幕末に活躍し全国的に名が知られている」「日野市で生まれた」「新選組は京都を守る役目をもっていた」などをパワーポイントを使用して視覚的にも興味を持たせるよう工夫した。その後、日野市はその新選組のまつりをしているということを提示し、予想を立てさせ、児童の調べに移っていった。「ひの新選組まつり」については一部の完全は少し知っていたが、全体としてはあまり知られておらず、調べる活動では大変意欲的に取り組んでいた。調べた後は、互いに発表し交流した。感想を書かせたところ、上記のように新選組、もしくは新選組とかかわりのある日野市に関心を持つことができた。特に、本校が高幡不動の近くにあるため、高幡不動尊と新選組とのかかわりに驚きをもった児童が多かった。

成果としては、学習前は新選組の名前は何となく知っている程度だった子ども達が、この新選組の学習を通し、自分達が暮らしている日野の歴史と深く関係がおり、また、地域にある建造物も同時に歴史的価値のあるものが多くあった、という思いをもつことができ、日野に対する郷土意識を育むことができた。

課題としては、資料として提示するものの数が限られていること、また、今回の学習をその後どのように生かしていくのか（新選組関連の寺社を訪ねる、新選組祭りへの参加、もしくは何か情報を発信するなど）ということが考えられる。

〈活用した資料〉

- ・ひのっこ新選組探検隊 (H16. 3. 31 日野市教育委員会)
- ・ひの広報 第1086号 (H16. 5. 1) 第1110号 (H17. 5. ↓)

・インターネット

第5回ひの新選組まつり

<http://www.linkdub.or.jp/~swing/report1.html>

第6回ひの新選組まつり

<http://www.linkclub.or.jp/~swing/hino2003.html>

ひの新選組まつり

<http://byp.web.infoseek.co.jp/hnp01.htm>

ひの新選組まつり

<http://rokujo.squares.net/shinsen/hinomatsuri/matsuri1.htm>

幕末ぶらりんこ 04' 薫風編

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~burarin/bakumatu37.html>

日野市観光協会

http://www.shinsenhino.com/shinsengumi/arcs/0000_news/000162.php

「ひの新選組まつり」参加記

<http://miburou.cool1.ne.jp/page040.html>

インターネットについては個人のサイトのためなくなっている可能性がある。

・新選組の旗、陣羽織についても貸し出しされている。(日野市観光協会)



ひの広報第1110号 (H 17. 5. 1)

事例 2-2 郷土教材名「徳川幕府と新選組」

1 単元名 第6学年社会科「明治維新をつくりあげた人々」

2 単元のねらい

- 黒船の来航、幕末から明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布等に関心をもち、我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民事等々の諸改革を行い、近代化を進めたことに理解できるようにするとともに、我が国の近代化に貢献した先人の努力について深く考える態度を育成する。
- 年表、写真、文章資料、関係図、副読本「ひのっ子新選組探検隊」などの資料を有効に活用し、調べ、まとめたことを目的に応じた方法で適切にまとめることができるようにし、明治維新をつくりあげてきた人々の業績が地域の発展や我が国の発展に果たした役割について考える力を育む。

3 研究主題との関連

平成16年、NHKが大河ドラマ「新選組」を放映した。市は「新選組のふるさと日野」を掲げて日野市から全国に「新選組の日野」の存在を発信した。そして、新選組に関連する資料を掘り起こし、資料の整備と充実を推進している。「新選組のふるさと歴史館」も新たにできた。日野をふるさととする子どもたちには、幕末から明治維新へ大きく変わる歴史の中で最後まで幕府を支えた意味を、また、明治の自由民権運動、殖産興業を拒うその原点が、日野に関しては、新選組を支えた日野宿の人々にあったことを身近にある郷土教材から発見させ、郷土への愛着をもたせたい。

4 単元の指導計画

時	おもな学習活動と内容	留意点・資料
1	①2枚の絵を比べてみよう 教科書に掲載されている2枚の絵を比較しながら読み取りこの間に社会にどのような変化が起こったのかを予想して、本小単元の学習問題をつくる。	☆2枚の絵に描かれた街並みや人々の装いなどの違いなどから、20年ほどの間の急激な変化に気づかせる。
1	②若い武士たちが幕府をたおす 若い武士たちが、何故その上うな世の中をつくりあげようとしたのかを考える	☆大久保、西郷、木戸の3人に着目させ、新しい世の中をつくりあげた人々の働きに関心をもてるようにする。
1	③新選組・上方歳三の年表を作ることにより日野出身者である若者が歴史に影響を及ぼしたことに気づかせ、事実を知ることにより、興味・関心を持って地域を考える。	☆官軍・賊軍という視点ではなく、日野出身の歴史に影響を及ぼした人物ということでひのっ子新選組探検隊を使い調べる。
1 0.5	④新しい国をつくる 明治政府の諸改革について調べ、改革の目的をとらえる。 ⑤人々のくらしや考え方が分かる 文明開化に関する資料を調べ、明治になって人々のくらしの中にあらわれた変化をとらえる。	☆富国強兵の国づくりの問題点についても話し合わせ、次時以降の学習につなげる。 ☆文明開花の様子について調べるとともに現在の自分たちの生活や文化への影響にも目を向けさせる。
0.5	⑥自由民権運動が広がる 明治政府の改革に対する社会の動きを調べ、自由民権運動の広がりについて、分かったことや考えたことをノートにまとめる。	☆明治政府の改革に対する国民の反対の声が、自由民権運動として広がっていったことを押さえる。
1	⑦国会が開かれる 国会の開設に至る過程を、人物の動きに即してとらえる。	☆議会の仕組みや憲法の内容について、現在と比較しながら考えさせるようにする。
1	⑧まとめとふり振り返り まとめの話し合い活動とテスト	

5. 郷土教材を導入した授業展開とそのねらい

①ねらい

新選組・土方歳三の年表を作り、歴史に影響を及ぼした日野出身の若者がいたことをとらえる。

②展 開

学習活動と内容	留意点(○)・資料(※)
1. 新選組について知っていることを発表し、幕末に活躍した新選組の存在を知る。 ・新選組副長の土方歳三は石田村の近くで生まれた。 ・井上源三郎は日野駅の近く出身・近藤勇や沖田総司なども佐藤道場で剣術の稽古をした。 ・佐藤彦五郎は新選組を支援していた。	※日野の地図と出身地や神社の位置 ○新政府側の久保、西郷、木戸の立場とは反対側に新選組がいたことを知らせる。
新選組・土方歳三の年表を作ろう！	
2. ワークシートで年表を作り、土方歳三の役割や出来事を調べ、場面場面での新選組の思いを考える。	※「ひのっ子新選組探検隊」 ○ワークシートの年表に史実を書き込んでいき、場面場面での新選組の思いを調べ記入する。
3. 発表し、土方の年表を確認にする。 ・新選組は京都の警備のために結成された。 ・幕府を裏切ることがせず、立場を守った。 ・池田屋事件では、京都を焼き討ちから収めた。 ・ 函館で最後まで幕府側として戦った。	
4. 振り返り・感想を書く。 ・ 上方は幕府を大切に思って行動していたのだと思った。 ・ 日野出身の土方や井上が京都の警備のために働いていたことを知っておどろいた。	

6. 児童生徒の活動の姿と課題

この1時間だけの学習だと、新選組についてさらに調べたい多くの疑問などを児童は持つ。例えば、農民出身の土方がなぜ名字を名乗っていたのか？刀を持っていたのか？といった児童からの疑問を総合や個人学習として、今後につなげていくことが課題である。特に新選組の日野での足跡や江戸での足跡（本陣、井上源三郎資料館、土方歳三資料館）は地域に残っているので、さらに追究すると面白いと考えられる。また、「新選組のふるさと歴史館」がオープンしたので、教材研究や児童の見学として是非活用したい。この歴史館では、新選組の成りすちなどを逐次内容を変えながら展示している。テーマが変わるごとに違うものを見ることができる。うまく生かしたい。また、市立日野図書館の2階では、新選組コーナーがあり、いつでも手にとって資料を見ることができるので、こちらも活用していきたい。

土方歳三とはどんな人だったのだろうか？

～年表づくり～

1835年（天保6年）5月5日

武蔵国多摩郡石田村（日野市石田）の農家に生まれる。
家は力のある地主。



新選組結成



池田屋事件



箱館での最後

今日の授業の感想（土方の思い・生き方・信念など）

新選組と日本のあゆみ 「ひのっ子新選組探検隊」年表参照

	年号	新選組のあゆみ	日本のあゆみ
江戸時代	1835	土方歳三誕生（石田村）	
	1845	土方歳三、江戸上野呉服店に奉公	
	1849		異国船打ち払い令
	1851	土方歳三、江戸大伝馬町呉服店に奉公	
	1853		ペリー来航
	1854		日米和親条約
	1855	土方歳三、石田散策を行商、先々の道場でけい古	
	1856		吉田松陰（長州藩）が松下村塾を開く
	1858		日米修好通商条約
	1859		安政の大獄（井伊大老、尊攘派を弾圧）
	1860		桜田門外の変（井伊大老、尊攘派によって暗殺）
	1862		生麦事件、外人殺傷事件が続く
	1863	土方歳三、幕府募集の浪士組に参加（日野からは井上源三郎、馬場兵助等も参加） 9月、新選組を拝命	将軍、京都に上洛（浪士組が警護にあたる） 8.18の政変、尊攘派を公武合体派が一掃する
	1864	池田屋事件の活躍で新選組の名が全国にとどろく（剣客集団）	禁門の変（長州藩の御所焼き討ち計画が発覚） 長州藩追討令のもとに長州戦争がおこる 英・米・仏・蘭による下関攻撃（長州藩大敗）
明治時代	1865		江戸、大坂を中心に打ち壊し運動
	1866		薩摩藩と長州藩が同盟（土佐、坂本竜馬）
	1867	6月、新選組は幕府直参となる	10月、大政奉還 12月、王政復古 薩長討幕派と公議政体派が紛糾
	1868	新選組、鳥羽伏見の戦いに敗れる 10月、土方歳三、榎本武揚等と蝦夷へ向かう	鳥羽伏見の戦い（薩長官軍勝利） 明治維新（明治に改元・明治元年） 五か条の御誓文
	1869	官軍の函館総攻撃により土方歳三死す	福沢諭吉が慶應義塾開く 版籍奉還 関所撤廃
	1871	（1870）佐藤彦五郎、多摩川の堤防工事完成、その後に区長、南多摩郡軍長就任	廃藩置県
	1880	日野町の民権家、日野義順・高木吉造 高幡村から森久保作蔵他	全国の代表が国会を開くよう政府に意見書提出（自由民権運動）
	1890		大日本帝国憲法発布

事例3 日野市郷土資料館の活用

郷土資料館では、小中学校が行う社会科見学や教科学習のための来館時に、展示資料の解説を行っている。学校の意向を聞きながら、資料を選定し解説方法を決定し、見学の流れを組み立てる。希望があれば、展示していない資料を準備したり、学校へ資料を持ち込んだりしての解説、野外での自然観察や史跡めぐりなども可能である。このような実体験の機会を提供することで、児童生徒が楽しく学び、心に残る授業が可能となる。

3-1 郷土資料館展示見学例

郷土教材名「古い道具と昔の暮らし」

概要：郷土資料館では、昔の暮らしを知るための資料として、かつての日野市域で一般的に使用されていた生活道具や農具などを数多く収蔵している。完全の見学が多い時期には、主に昭和初期の生活道具を現在の日常生活と比較しながら紹介する「暮らしの道具」展を開催してきた。これらの生活道具から、かつての日野市域での暮らしをたどることができる。

※資料数や種類は限定されるが、同様の内容で教室に資料を持ち込んで解説する「出前いっちょう」も可能である。

1 小学校第3・4学年 社会科 「古い道具と昔の暮らし」

2 単元の目標

- (1) 教科がねらう目標
地域の人々の生活の変化を調べることができる。
地域社会に対する誇りと愛情を感じる。
- (2) 郷土学習がねらう目標
 - ① 昔の道具の仕組みや使い方を理解し、当時の人々の知恵や暮らし方を考える。
 - ② 日野の昔の暮らしや特徴について知り、郷土とは何かを考える。
 - ③ 郷土資料館（図書館）の利用法、文献の調査法を身につける。

3 研究主題との関連－郷土意識を育む指導のありかた

郷土資料館を見学することで、かつての日野の様子を知るだけでなく、自分にとって郷土はどんなのか、どのようなものなのかを考える機会となる。

本で調べる、人の話を聞く、実際の道具を見るという道筋を通して、郷土の昔の暮らしについてより実感をもって学ぶことができる。

4 授業展開

郷土資料館見学の展開 ＊移動時間を含まず 60 分を想定

- (1) 導入 5 分
 - ・ 郷土資料館は、歴史・民俗・自然など様々な日野の郷土に関する資料を収集・保存して活用している。
 - ・ 資料は日野の人々から寄贈された大切なものである。
 - ・ 郷土資料館の役割や利用方法がわかる。
- (2) 展開
 - ① 「昔の道具」について学芸員の説明を聞く。(20 分)

【実物資料】主として昭和初期の生活道具を展示している。炊事の道具（鍋・釜・飯櫃・お櫃入れ）、照明の道具（行灯、提灯）、暖房の道具（火鉢、行火、石炭ストーブ）、装いの道具ほか（たらいと洗濯板、火のし、炭火アイロン、ミシン、杵、箱枕、薬箱、文机）など。

【留意点】道具の名前だけでなく、どのように使ったのか想像し易いように、現代の道具との比較や名前の由来などもあわせて説明する。道具に見られる知恵や工夫を伝える。火や炭の利用や取扱い、素材など昔の道具に共通する点も伝える。

②生活道具の観察を記録にその後自由に見学する。(25 分)

各自の選択した道具をスケッチし、道具について理解した内容を記絃用紙に書く。

【学芸員および教師の支援】道具の特徴に気づくように助言し、児童の質問に答える。

(3) まとめ 10 分

- ・生活道具の説明を聞き各自が観察した後での質問をする。

【児童生徒の活動の姿と課題】

説明をしながら、「何だと思えますか?」といった質問をなげかけると、多くの場合は的を得た回答が返ってくる。それは事前学習の成果と思われる。しかし、回答したばかりのことを質問される場合もある。見学の場において、児童の集中力を保ち、解説内容を理解できない児童を把握するのは難しい。実物を見ることで、心の片隅に残ればよいのか、それとも一定の理解すべき目標があるのかといったことを、教師と学芸員が事前確認する必要がある。

※なお、見学時期によって展示内容が変更となる。希望にあわせて資料を準備することも可能。

昔の道具以外の展示（例：日野の化石、江戸時代の村絵図）からもふるさと日野の歴史についてあわせて見ることができる。



夢が丘小学校 4年生
企画展「暮らしの道具今・昔」見学

3-2 出前いっちょ 実物資料を用いた出張授業（本事例集 p.57 参照）

郷土教材名「昔の農具を用いた脱穀体験」

概要：箕、唐箕、千歯こき、足踏み脱穀機などかつて日野でつかわれていた農具を用いて、学校で収穫した稲の脱穀作業を校内で行う。

1 小学校5年生 総合的な学習の時間「米作り 脱穀体験」

2 単元の目標

- (1) 教科がねらう目標
昔の道具から、当時の人々の知恵や苦労、米を食べられる状態にする工程を学ぶ。
- (2) 郷土学習がねらう目標（郷土意識の育成、郷土資料の活用）
 - ・日野市域で盛んだった稲作について実感する。
 - ・日野と農作物について現在の暮らしと結びつける。

3 研究主題との関連－郷土意識を育む指導のありかた－

稲作が盛んであった郷土日野の特色を意識できるように指導する必要がある。また、現在の自分たちの食生活と農業の深い結びつきについて実感させる必要がある。

4 授業展開

- (1) 脱穀作業の方法や道具の使い方、藁の活用などについて説明を聞く。
 - ・箕や唐箕、千歯こきや足踏み脱穀機の特徴および使用方法や道具の進化。
 - ・藁は縄やわらぼうしなど、生活に必要な素材として活用できる。
 - (2) 実際に脱穀作業を行う。
 - 【支援】古い道具を正しく、大切に安全に使えるよう指導する。
-) 脱穀や稲作についての質問をする。
【支援】児童の質問を全員で共有できるように説明する。

5 児童の活動の姿と課題

児童は夢中になって脱穀機や唐箕を使う。互いに使用方法を教えあう一方で、無茶な使い方をすることもある。収穫が少ない場合は、農作業の困難さや解決策を伝える必要がある。手の空いた児童が飽きないような対策が必要である。

郷土教材名「大昔の体験 土器・石器を中心に」

概要：日野では旧石器・縄文時代に始まり、数多くの遺構・遺物が発見されている。発見場所は台地・丘陵地、低地と特定の場所ではなく、学校の近くの遺跡など身近な遺跡を紹介することもできる。

1 小学6年生 社会「原始・古代の人々」

2 単元の目標

- (1) 教科がねらう目標
 - ・日本の歴史のはじまりについて考えることができる。
 - ・遺跡や文化財についての理解と関心が深まる。
- (2) 郷土学習がねらう目標（郷土意識の育成、郷土資料の活用）
 - ・日野で出土した土器や石器、遺構などについて知る。
 - ・日野における大昔の人々の暮らし方、現在の人々の暮らしについて考える

3 研究主題との関連―郷土意識を育む指導のありかた―

遺跡の分布から、日野には古くから原始古代の人々が暮らしていたことがわかり、水に恵まれた日野の良さを知ることにもつながる。水や自然を生かした大昔の暮らしと現在の暮らしの相違点や人々の知恵を学び考えるよう指導する必要がある。

4 授業展開

- (1) 日野市内の遺跡や土器や石器についての説明を聞く。
 - ・日野には多くの遺跡が発見され、埋蔵文化財は大切なものである。
 - ・土器や石器の材料、作成方法、使用方法、時代による変化。
- (2) 火の利用と古代人の暮らしについての説明を聞き、火起こしを体験する。
 - ・火は土器の焼成、調理、暖房などに用いる大切なものだった。
 - ・火を起こすために、原始時代から様々な方法が編み出されてきた。

5 児童生徒の活動の姿と課題

実物資料に触れると、児童は生き生きと発言し、笑い声が聞こえる楽しい授業となる。楽しいだけでなく習得目標をおさえた授業が必要である。土器や石器などから、過去を推測してみる経験が別の場面でも生かせるような解説を心がけたい。

郷土教材名「多摩川で大昔の化石をさがそう」野外観察指導

概要：日野では、アケボノゾウやクジラなど約 150 万年前の化石が数多く発見されている。多摩川で観察を行い、大昔の環境変化を知ることができる。

1 小学校 6 年生 理科「地層のでき方」

2 単元の目標

- (1) 教科がねらう目標
 - ・泥・砂・火山灰の地層や、化石が含まれる地層を観察する。
- (2) 郷土学習がねらう目標（郷土意識の育成、郷土資料の活用）
 - ・日野の地域から様々な化石が産出していることを知る。
 - ・郷土日野の自然について関心をもって観察をする。
 - ・身近な地域の自然にふれあい大切にする。

3 研究主題との関連―郷土意識を育む指導のありかた―

化石となった生物が生息していた時代は、人々の歴史とかけはなれた大昔の出来事である。化石という話題は児童生徒が興味を持ち易い。児童生徒の郷土意識を育むためには、身近な対象に興味をもって接することが大切である。

4 授業展開（半日コース）

- ・観察ルートは多摩川左岸河川敷、中央線鉄橋上流から立日橋付近まで
- ・ゾウの足跡発見地点、植物化石、生痕化石、軽石、火山灰、貝化石の産出地点

5 児童生徒の活動の姿と課題

児童は化石に関心があり、積極的に楽しむ。まずはよく観察するように促すことが必要となる。化石の大切さ、化石や地層から古環境が推測できることなど面白さもあわせて伝えたい。期待はずれや、遊びに終わらせない事前指導が不可欠である。

3-3 「デリバリー博物館」 資料館外で行う資料展示（本事例集 p. ??参照）

郷土教材名 「日野の遺跡と農具～学校周辺地域を中心に～」

概要：「デリバリー博物館」とは、余裕教室など資料館以外の会場で展示を行う事業である。既存のパネル・資料セットを用いるほか、学校側の希望をふまえ共同で展示内容を検討し企画を行う。

また、展示規模や期間についても柔軟に対応することが可能。展示の実務は学芸員が行うが、希望があれば作業内容によって共同で行うこともできる。学校や郷土資料館にある資料や物品を活用するため、特別な経費は必須ではない。

〈展示例〉

- ・原始時代の日野
市内発掘の土器石器類や学区域の遺跡
縄文土器、打製石斧、磨製石斧、土師器、遺跡の写真パネル
- ・ふるさとの農具
日野市域で使われてきた農耕の道具
鍬、鋤、馬鍬、振り馬鍬、カルチベータ、種まき器
千歯こき、足踏み脱穀機、唐箕、篩、万力

1 学年 教科 単元名

学年、教科、単元名は設定せず、学校側が必要に応じて展示室を活用する。また、要望に応じて展示資料や内容を変更することで、様々な授業に活用が可能である。

2 研究主題との関連 郷土意識を育む指導のありかた

日野市の歴史・考古・民俗・文学・自然などについてのテーマの展示では、授業だけでなく郷土意識を育む様々な機会に活用できる。また、校内展示のため、資料を間近にいつでも見ることが可能で、郷土を実感することができる。

教科や単元に応じて資料を揃えるなど柔軟な活用が可能となる

3 デリバリー博物館実現のための凡その流れ

共同企画→事務手続き（貸出申請）→展示作業（原則として学芸員）→公開開始



日野市立第三小学校内展示室の様子

3-4 職場体験

郷土教材名「地域の職場で将来の生き方を考える」

概要：「将来の生き方」を考えるために、様々な業種の職場を訪問し実際の仕事を体験する。郷土資料館では、専門職の学芸員および一般事務職が勤務しており、調査・展示・研究・体験学習会の開催などのために様々な業務を行っている。その内郷土資料館特有の仕事として学芸員が行っている資料整理、展示を補足するパネル作成、体験学習会の準備を職員とともに行う。

1 中学校2年、総合的な学習の時間「他者から学ぶ」、郷土資料館での職場体験

2 単元の目標

社会人とともに働く体験を通して、それぞれの職場の役割や働く人の役割を知り、社会とのつながりを感じることができる。

3 研究主題との関連 郷土意識を育む指導のありかた

郷土のことを調査し、資料を蓄積し、郷土について伝えていく役割を郷土資料館は担っている。

この職場体験では、博物館学芸員という職業について体験するだけでなく、郷土を知るという体験も必然的に伴っている。児童生徒が将来どのような職業に就こうとも、郷土を知り・伝えることの大切さが伝わるように指導することが重要である。

4 授業展開

(1) 職場体験の時程を確認する。

(2) 施設案内の説明を開く。

施設概要、資料館の活動内容（展示・資料調査・収集・講座開催など）

(3) 実際に郷土資料館で行っている実務を共に行う。

- ・体験学習で参加者が作成した土器の野焼きを行う。
- ・雑木林の散策し、自然観察会の実施運営について学ぶ。
- ・調査活動および展示パネルの作成を行う。

昔の絵図に現在の地名を対応させ、結果をもとにパネルをつくる。

5 児童生徒の活動の姿と課題

展示を例にすると、展示のための調査やパネル作成などの作業に生徒は熱心に取り組み、慌しく1日が終わる。資料館の裏方で行われる様々な仕事について、生徒が知る機会は極めて稀であり、職場体験ではすべての仕事を体験することができない。「楽しい職場体験だった」だけで終わらせずに、郷土資料館での仕事の苦労や郷土を伝えることの意義など、生徒の心に残るように心掛ける必要がある。生徒からは、「貴重な体験だった」、「郷土の文化を伝える仕事が印象に残った」などの感想が聞けた。

3-5 中学校における日野市郷土資料館の活用事例

はじめに

平成17年度4月に日野市郷土資料館が教育センターに移設され、学校教育と郷土資料館のより有機的で機能的な連携が可能となった。そこで、本研究では郷土資料館のより有効な活用法を検討し、郷土資料館の活用に幅と広がりをもたせることを目的とする。

研究テーマ 選択授業における郷土資料館活用の試み

1 研究テーマ設定の理由

アンケート調査によると中学校における郷土資料館の利用は、郷土資料館の地理的な位置、近隣中学校から遠距離にあるという点から、利用が限られている。

また、限られた時間や人数、他教科授業との関係から授業に取り入れにくいという現状がある。そこで、本研究では選択授業における郷土資料館の活用を研究することで、こうした課題の解決を図ることとした。

2 研究目的

郷土資料館の活用法には、①収蔵資料の利用、②学芸員の利用がある。本研究では、①と②を同時に活用できる訪問型ではなく、②を中心として学芸員の来校による連携授業を行うことで、郷土資料館学芸員との連携を深め、生徒の郷土資料館利用と郷土教育推進を図ることを目的とした。その際、選択授業を取り上げたのは、通常の授業では、学習内容が授業進度によって決められているのに対し、選択授業では、①学芸員を継続して利用できる指導計画をたてやすい②比較的少人数であり、学芸員の負担が少ない。この2点から今年度は選択授業で行った。

3 研究内容

2年選択授業において、日野市の歴史に関わる事項について調べることをテーマに調べ学習を実施した。郷土についての調べ学習では、生徒の資料収集、資料活用が重要となる。本研究では、調べ学習の大きな支後者となる学芸員との連携の在り方、連携の方法を実際の選択授業を通じて研究を連めた。

4 実践事例

(1) 学芸員との連携内容

学芸員の郷土に関する専門的知識を活用し、さらに郷土資料館の利用を図るために、2年選択授業において

- ①郷土資料館利用ガイド
- ②日野市の歴史紹介（特色のある事項について）
- ③調べ学習のアドバイス（情報収集法、資料館情報の利用など）

の3点を内容として行った。

(2) 学芸員との連携方法

事前に学芸員と打ち合わせを行い、学芸員の訪問による連携授業案を計画作成した。連携方法としては、TT形式をとり、生徒の質問に答えたり、助言を行ったりして、学芸員による直接授業参加の形をとった。このことにより、学芸員の専門性がより生かされ、生徒たちが知りたいことやヒントをタイムリーに得られるようにした。また、内1回は郷土資料館の利用案内を中心に

して、学芸員による授業を実施し、郷土資料館の利用の促進を図った。

(3) 指導計画

- 11/ 8 (火) オリエンテーション (日野の歴史に関する調べたい事柄の調査)
- 11/15 (火) 学芸員による出前授業 (1)
- 11/22 (火) 調べ学習①
- 12/ 6 (火) 調べ学習②
- 12/13 (火) 調べ学習③
- 12/20 (火) 調べ学習④
- 1/24 (火) 調べ学習⑤ 学芸員による出前授業 (2)
- 1/31 (火) 調べ学習⑥・発表準備
- 2/ 7 (火) 調べ学習⑦・発表準備
- 2/14 (火) 調べ学習⑧・発表準備
- 1/21 (火) まとめ発表
- 3/7 (火) まとめ発表

(4) 実践経過と結果

第1回

生徒がどのようなところに興味・関心を示しているか、調べたい事柄を把握した。調べたい事柄としては

日野市の今と昔 (多摩平の今と昔)、 日野の武将・武士
日野市の歴史的なできごと (例えば、空襲にあったかなど)
新選組 (多数)、 日野市ができたときのこと、 日野の歴代市長
交通の歴史 (高速道路、国道、鉄道)、 日野の歴史的な人物
があげられた。

調べる方法としては、インターネット、本で調べることを全員があげていた。

少数ではあるが、人に聞く (4名)、現地に行く (2名) があがった。しかし、郷土資料館を利用するは、あげられなかった。このことは、生徒にとって郷土資料館が身近な存在でないことを伺える結果となった。

第2回

学芸員による出前授業 (1)

事前に、学芸員には生徒の調べたい事柄を送り、当日の授業内容の、「郷土資料館利用案内と日野市の歴史的な事柄の紹介」についての綿密な打ち合わせをした。

当日は、まず、学芸員が、どうやって調べていけばよいかを、歴史の実例をあげて紹介した。例えば、「万願寺という寺は日野市にはないが、地名にのっている。それを調べるには『史誌』にあたってみることである。もとにあたるには『本』が最適である。目で見て知る方法としては『地図』

がある。古地図、絵地図を見ることで、昔の様子、違いがよくわかる。『人』に聞く場合は、他の情報と比較することで聞いたことが確かになる。」等、丁寧な説明があった。

次に、インターネットと本の違いに触れ、専門家による本の有用性や、インターネットによる情報の収集では、様々な情報があるのでいくつかをあたることで、より正確になるとの助言も得られた。文字によらない文化財資料としては、板碑、石仏の紹介を行った。最後に、郷土資料館の利用案内を行い授業を終えた。生徒はインターネットに頼りがちだが、本の重要性や文化財資料の活用、郷土資料館の企画展のリーフレットやパンフレットも有効であることを知った。

第3回～第6回

調べ学習を図書室、パソコン室で行った。生徒によっては、学芸員の話聞いて、調べたい事柄を変更して取り組んだ。図書室の本、インターネットの検索によって、情報を収集していたが、調べる事柄が地域に限られているために、事柄によっては欲しい情報が見つからず、途中で調べたい事柄を変更するなど、調べ学習に苦労している生徒も見られた。

第7回 学芸員による出前授業(2)

調べ学習の進捗状況を事前に送り、「多摩平の今と昔」、「日野の武士」など、調べ学習に必要な情報を学芸員から直接得られるように依頼した。また、実際に調べ学習の間、生徒からの質問に専門的な立場から答えられるように机間指導をお願いした。学芸員は個々のテーブルを回りながら、生徒の質問に答えたり、生徒の調べた事項についての補足や、郷土との関連を投げかけたりするなど、郷土に関する知識や意識を高めることを行った。

第8回

発表に向けての準備と発表用資料づくりを行った。

第9回～第10回

発表会を行った。冊子にしたり各自で工夫された発表が行われていた。

5 考 察

今回の実践では、途中経過であるが、以下の点が成果として考察される。

- (1) 学芸員との連携授業では、たとえば、『田中冬二』が南多摩郡日野町豊田に居を構えていた記述について生徒がわからずにいたところ、学芸員による直接の指導で、日野市であるとわかり、生徒の郷土に関する新たな発見と派生的に人物と日野とのつながりを知ることとなった。

このように、学芸員が授業に入ることで、郷土資料の紹介や調べ方のアドバイスに限らず、郷土に対する意識が高まるきっかけを生徒にもたらす結果となった。

- (2) 図書室にある埋もれた資料が日の目を見ることになった。「たき火」で有名な『巽聖歌』、その他『伊藤整』、『田中冬二』の作品集や資料についての学芸員の紹介が、担当教師と図書室の市政協力員とにより、日野市にゆかりの人物コーナーを設置する契機となった。このコーナーは、図書館を利用する生徒が郷土のゆかりの人物を新たに発見する場となり、郷土意識を育む一助となった。

- (3) 郷土資料館の活用以外に、地域の図書館を利用することで、他施設との連携をもたらした。授業で郷土を罰べる際、郷土の資料の充実が重要である。担当教師も生徒の要望に応えるため、いきおい郷土資料の収集と情報収集に取り組まなければならない。必要な資料をリストアップし、図書館員の協力により、資料を揃えることができた。これにより、郷土資料館の活用を進めることが図書館利用をも進めることになった。
- (4) 選択授業における学芸員との連携授業は、学芸員が授業に合わせられる点で有効であった。担当教師が学芸員のスケジュールに合わせて、連携の時期・時間等、柔軟に対応することが可能であった。
- (5) 学芸員との連携授業を実施することで、学芸員と教師の相互の向上につながるようになった。このことを通じて、教師自身が郷土『日野』に対する知識と学習を増すことになり、歴史や地理の授業で、日野を紹介する事が可能になり、授業の幅が広がることとなった。また、学芸員自身も、生徒の質問に答えるために専門領域に関わらず、さらに郷土『日野』に対する知識を深めるきっかけとなった。

しかし、以下の点が課題としてあげられる。

- (1) 学芸員がより専門性を発揮できるようにするには、選択授業での調べ学習のスタイルを変更することが考えられる。例えば、最初に学芸員によるガイダンスを行い、生徒は学芸員の専門分野に関わるテーマから調べる事柄を選び調べ学習を行う。そうすることでその後の調べ学習もよりスムーズにかつ、学芸員の専門性がより発揮できると考えられる。
- (2) 学芸員と生徒の関わり方の難しさがある。どこまで、生徒に関わったら良いのか、学芸員自身からも声があった。このことは、中学校における生徒の実態の多様性と指導の難しさが反映されている。しかし、逆に言えば、学芸員の熱心さの現れでもある。
- (3) 学芸員と生徒との双方向のやりとりが頻繁にできる方法を探る。
学芸員との連携授業で、郷土の調べ学習において、生徒が知りたい情報やアドバイスを得られることができた。しかし、学芸員が訪問する回数が限られたものになる為、調べる過程で生徒が抱いた疑問、知りたい情報や利用したい資料をタイムリーに得ることが難しいことが多々あった。そのような時に、例えば、学芸員とファックス等を利用して直接双方向でやりとりができると、調べ学習をよりスムーズに進めることができると考えられる。
- (4) 生徒自身の郷土資料館の利用が進まなかった。
学芸員による郷土資料館紹介と担当教師が郷土資料館の利用を進めたが、生徒は休日等に自ら訪問することが見られなかった。調べ学習で最初に調査したように、郷土資料館の利用より、身近な図書室、インターネットを利用することを優先する傾向は変わらなかった。これは遠いという距離的な要素が一番であると考えられる。

おわりに

今年度は、学芸員との連携授業を中心に研究を進めてきた。成果もあったが、課題もあった。まだ、研究の端緒についたばかりであり、今後ともさらに研究を進めていく必要がおる。

本研究により、子どもたちが、郷土資料館の利用を通して、または授業で自らが郷土日野を調べることを通して、郷土目野に対する新たな発見と、郷土に対する愛着を育み、日野の未来を開く担い手となることを願うものである。



生徒の質問にこたえる
学芸員



図書室に設置した
郷土資料コーナー

事例4 中学校社会科副読本「のびゆく日野」の活用を考えた中学校社会科の 年間指導計画例

はじめに

日野市では、中学校副読本「のびゆく日野」が配布され、郷土日野の地域学習の一助としている。本研究では、中学校副読本「のびゆく日野」を授業でさらに活用することで、郷土教育を推進することを目的としている。先生方が郷土教育に目を向け、子どもたちの郷土意識を育むことを願うものである。

研究テーマ 中学校副読本「のびゆく日野」の活用を考えた中学校社会科の年間指導計画例

1 研究テーマ設定の理由

中学校副読本「のびゆく日野」の活用状況はアンケート調査によるとほとんど活用されていない結果がでた。その理由としては、現状では、地理的分野で地域調査に使用する程度であり、教科書の学習内容を限られた授業時数で教えなければならない為、副読本の利用が教科書の進度に併せていくことが考えられる。特に歴史的分野や公民的分野における副読本の扱いはそのような傾向が強い。

また、副読本の扱う内容が日野市の関連で扱われているため、日本や世界全体、社会全般を扱う教科書に位置づけるに難しいという現状がある。

この二点から副読本の活用が進まないと考えた。そこで、本研究では副読本の活用を中心とした中学校社会科の年間指導計画を作成することで、こうした課題の解決を図ることとした。

2 研究目的

副読本の授業の活用には、①副読本そのものを主教材としての活用、②教科書の補助資料としての活用がある。

本研究では、郷土資料館の活用を視野に入れながら、②を中心に副読本の活用と郷土資料館の活用を年間指導計画に位置付けることで、中学校社会科における郷土教育推進を図ることを目的とした。

3. 研究内容

教科書の学習内容と関連した、副読本が活用できる部分を、中学校社会科の年間指導計画に位置づけることで、中学校3年間の社会科学学習に副読本の内容が活用されるようにした。

また、郷土資料館との連携を図り易くする為に、郷土資料館資料も関連させて、年間指導計画に位置づけ、利用しやすいようにした。

さらに、副読本活用例の指導案を示すことで、実際の授業における活用のヒントとなるようにした。

4. 年間指導計画例

	教科書（地理）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
1 年 2 学 期	1章 身近な地域を調べよう 1 地形図から地域を読む →（指導案例1） 2 地域を歩こう 3 調査テーマを決めよう 4 地域調査をしよう (1) 自然・環境班 →（指導案例3） (2) 人口・都市班 →（指導案例3） (3) 農業班 →（指導案例3） (4) 工業班 (5) 商業・交通班 →（指導案例3） (6) 生活・文化班	（指導案例1）参照 II 日野の移り変わり III 日野の位置 p6 地形図の水田（緑）市街地（赤） に着色させ、変化を読みとらせる （指導案例3）参照 I 日野の自然環境p3 1 日野市の概要（公民）p61の作業 レットトライ8 p8人口の移り変わり IV「水の郷」日野p9 V 日野の農業p11レットトライ VI 給食と地元野菜p12 VII 働く人々と産業p15～17 VIII 日野の商業p18、19 IX 日野の交通と人々の動きp20～ 5 土方マップp48～49	資料のページ p105～113
2 年 1 学 期	1章 世界と日本の自然 1 外国人のみた日本の自然 2 動き続ける大地 3 地域によって気候が変わる 4 自然の脅威とめぐみ 2章 世界と日本の人口 1 人口からみた世界と日本 2 60億人の地球 3 人口が集中する首都圏→（指導案例2） 4 地域をいかす	多摩川大出水（年表）p117 （指導案例2）参照 日野市の人口ピラミッドp105ドーナツ化現象 人々の動き～昼間人口と夜間人口を比べるp22 調べてみようp23 6 ひの新撰組まつりp50	

	教科書（地理）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
2年2学期	4章 世界と日本の暮らしと文化 1 日本の暮らし再発見 2 いろいろな人々の暮らし	6 ひの新選組まつりp50紹介	
	教科書（歴史）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
1年1学期	人類の誕生と古代社会 ■地域の歴史を調べよう		以下の◎印は企画展示図録（リーフレット）
	2 日本の国のはじまり ■縄文土器がつくられる ■稲作がはじまる ■大和政権がおこる ■中国・朝鮮と交流する	1 大昔の日野 ○縄文時代p27 1 大昔の日野 ○弥生時代p28 1 大昔の日野 ○古墳時代p28	日野市埋蔵文化財発掘調査概報ほか発掘調査報告書 日野市史史料集 考古資料編 ◎考古学入門～日野の旧石器から古墳時代まで～日野市史通史編 自然 原始・古代編
	3 古代国家のあゆみ ■律令国家が成立する	2 古代・中世の日野 奈良・平安時代の日野の様子p29～30	日野市史史料集 古代・中世編
2学期	中世社会の成立と動乱 ■地域の歴史を調べよう わたしたちの町に中世を発見する		日野市史通史編二（上）中世編 日野市史史料集 板碑編
	1 武家政権のはじまり ■武士が鎌倉幕府をつくる ■幕府の政治が進む ■元が襲来する	2 古代・中世の日野p29～30	◎中世の日野～幻の真慈寺と高幡不動～

	教科書（地理）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
1 年 2 学 期	2 内乱と下克上の時代		
	■民衆が立ち上がる 3 近世社会の成立と発展 ■地域の歴史を調べよう 民衆の信仰と供養	幕府時代の日野 p31～32 	日野市史史料集 高橋 不動産内文書編 日野市史史料集 板碑編
3 学 期	3 江戸幕府の成立と政治 ■江戸幕府が成立する ■幕府が鎖国をおこなう ■幕府・藩の民衆支配が進む 4 新しい時代への動き ■農業が発達し、都市が 繁栄する	導入として「新選組探検隊」p4～9 活用 江戸時代の日野 日野宿p32～33 「日野と新選組－土方歳三－」甲州 道中p40 レットトライ－3 p42	日野市史通史編二（中） 近世編（一） 日野市史通史編二（下） 近世編（二） 日野市史史料集 近世 1～3 日野市史史料集 地誌 編・続地誌編 ◎江戸開府400年記念 展「日野とお江戸」
2 年 1 学 期	近代国家の成立とアジア ■地域の歴史を調べよう 石碑に刻まれた戦争	「日野と新選組－土方歳三－」レ ットトライ－5 ②池田屋事件についてp 44	
	■幕府が倒される 3 明治維新と自由民権運動 ■新政府が生まれる ■政府は富国強兵をめざ す	江戸時代の日野 p33 「日野と新選組－土方歳三－」 レットトライ－2 p41年表 (3) 戊辰戦争から五稜郭へp45 明治時代の日野 p34	◎新選組のふるさと日野 日野市史通史編三近代 (一) 日野市史史料集 近代 1～3 河野清助日記1・2・3 慶応2～明治

	教科書（地理）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
2 年 1 学 期	■国会開設をめざす運動がおこる ■自由と権利を求める声が高まる	明治時代の日野 日野の自由民権運動のようす p34	
2 学 期	4 朝鮮侵略と産業革命 ■日本が大陸侵略を進める ■産業革命が進む ■社会生活が変わる	戦前の日野 明治、大正、昭和にかけての日野の産業の移り変わり p35～36	日野市史通史編四 近代（二）現代 ◎日野と養蚕－オコサマを育てて ◎清流となりわい～日野の川漁とその漁法～
	2 大正デモクラシー ■生活の近代化が進み、文化が大衆化する		◎鉄道の時代 ◎市制40周年記念企画展「大工場がやってきた」 ◎まちに電車がやってきた～京王線と日野の軌跡～
	5 第二次世界大戦 ■国民生活が悪化する	Ⅲ テーマ学習 学童疎開と戦争中の人々の生活 p52～57	
3 学 期	現代の日本と世界 ■地域の歴史を調べよう 高度経済成長と町や村の生活		◎終戦50年記念平和事業 戦争資料展 日野市史 民俗編 日野市史史料集 板碑編
	1 大戦後の世界と日本の民主化 ■戦後改革が始まる ■高度経済成長で国民生活が変化する 3 激動する世界の中の日本 ■高度経済成長の時代が終わる ■激動する世界の中で	7 第二次世界大戦の日野	◎鉄道の時代 ◎市制40周年記念企画展「大工場がやってきた」 ◎まちに電車がやってきた～京王線と日野の軌跡～

	教科書（地理）	副読本「のびゆく日野」	郷土資料館
3 年 1 学 期	現代社会に生きるわたしたち ■父母の育った時代と今日 ■豊かになった生活の中で ■世界とつながる今日の貿易	7 第二次世界大戦の日野 戦後の日野のようす p36 3 社会的分業 レットトライー3 P83 7 逆輸入レットトライー14 p101	
	■暮らしを支える経済→ ■市場と価格の決まり方→	1 身近にある経済p82 2 経済活動のにない手p83 3 レットトライー7 p90 3 商品の流通と市場 P90	
	2 現代の企業と働く人々 ■現代の企業と株式会社 ■金融の働きと日本銀行 ■お金の取引と暮らし ■大企業と中小企業	2 企業（1）株式会社 p86 レットトライー4 4 金融 p94～96 レットトライー11 6 為替 p99～100 レットトライー13 (2) 中小企業 p89 レットトライー6	
2 学 期	3 国民の暮らしと政府の役割 ■景気の変動とわたしたちの暮らし ■国（政府）の経済活動と支出	5 物価（2）物価の安定p99 3 地方財政（1）日野市の財政p4 (2) 日野市の歳出 p75 5 物価（2）物価の安定p98	
3 学 期	■地方自治と住民の権利	2 地方自治体のしごとp64～69 (5) 地方自治のしくみp70～72 4 市民の権利義務p76 レットトライー5 p77～79 全国の手本となった日野図書館	

5. 副読本「のびゆく日野」を活用した社会科地理指導事例（1） 副読本P 5～8

1 教材名 「身近な地域を調べよう」（1 時間扱い）

2 目標・身近な地域の地形図を利用し、土地利用の変化を読みとることで、地域の移り変わりを理解する。

3 本時の指導

① ねらい 日野市の移り変わりを日野市の地形図から読みとり、変化の様子を考え自分のことばで表現する。

② 展 開

学習活動と内容	※学習資料と◎支援
1 日野市の移り変わりを調べるための必要な資料を話し合う。 ・地形図 ・土地利用図 ・新旧の地形図の比較	※中学校社会科副読本「のびゆく日野」 ◎土地地の利用の姿を知るには地形図が有効であることを押さえる。 ◎地図記号、八方位など読図の基礎基本を簡単に押さえる。
2 副読本「のびゆく日野」の地形図を利用して、作業をする。 ・市街地（赤）、田（緑）、畑（黄）果樹園（紫）桑畑（紺）に着色する。	中学校社会科副読本「のびゆく日野」 p 6 昭和48年の地形図 平成14年の地形図 ◎地図記号の確認と鉄道、主要な道路を確認する。
3 着色し終わった二つの地形図から、日野市の移り変わりの様子を発表する。 ・水田が減って市街地が増えている。 ・水田であった所に道路が作られている。 ・新しく作られた道路は規則正しく作られている。 ・水田が畑や果樹園になっている。 ・道路の上をモノレールが通っている。 ・高幡不動の駅の西側の市街地が大きくなっている。	◎先に地形図全体の大きな変化をとらえさせ、細かな変化にばかり目がいかないようにする。 ◎水田の土地利用の変化、水田から観光農園、住宅地への転換を道路から読みとらせる ◎宅地化の進展が、日野市の都心との位置関係、交通の発展によることも気づかせたい。

③評 価

・日野市の移り変わりを地形図から読みとり、自分のことばで発表できたか。

社会科地理指導案例（２） 副読本P20～23

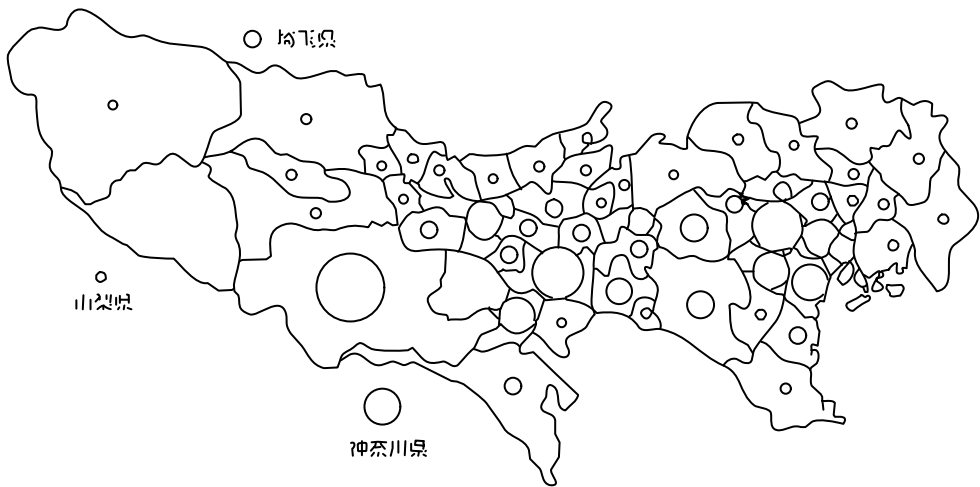
1. 教材名 「人口が集中する首都圏」（1時間扱い）
東京中心部と郊外（日野市）との結びつき
2. 目標
 - ・首都圏への人々の集中が多くの問題を引き起こしていることを自分の住んでいる地域と関連させて考えさせる。
3. 本時の指導
 - ①ねらい
 - ・郷土学習の観点から、東京都中心部と郊外（日野市）との結びつきを住宅と通勤の面からとらえる。

②展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	自分たちの保護者が勤めている地域を知る。	生徒の保護者が日野市内で働いているのか、日野市外で働いているのかを生徒に問いかけ、挙手させる。	身近な話題から都市の過密化の問題に対して関心を持たせる。
展開	- 日野市は昼間人口のほうが少ないことに気づかせる。 - 周辺都市より都心への流出人口が多いことに気づかせる。 - 日野市や日野市周辺都市より都心のほうが企業数が多いことなどで都心の昼間人口が多くなることを理解させる。 - ドーナツ化現象を理解させる。 - 都心の過密による問題点をあげる。	- 日野市の昼間人口、夜間人口を調べる。「流出人口」、「流入人口」のグラフの中で1000人以上のものを色塗りさせる。 - 昼間に日野市から人口が多く流出する地域を調べる。 - 同時に、日野市に流入する人口も調べる。 - 日野市の昼間人口が少なくなる理由を考えさせる。 - 周辺都市より都心への流出人口が多い理由を考えさせる。 - 都心に多くの人が通っている日野市には、どのような問題が生じているのかを考えさせる。	「のびゆく日野」のグラフ（P. 22、P. 23）を活用。グラフの読み取り方を指導する。 - 東京都内の市名、区名の入った地図を配布して、流出人口の多い市名・区名を調べさせる。 - 調べる地域は東京都内にしぼる。 - 日野市と都心部とを結びつけている交通の中心となっているJR中央線、京王線の役割の大きさに触れる。（「のびゆく日野」P. 20の表を参照する。） - 近辺でのマンションなどの建設や農地の宅地化などの状況にも関心を持たせる。
まとめ	郊外に住宅を求めて都心部周辺都市の人口が増加していることを日野市の「昼間人口」の流出と流入の差を関連づけて理解させる。	首都圏の人口集中によっておこっている諸問題をまとめる。	

4 資料

(1) 日野市通勤・通学先別流出人口 (「のびゆく日野」P. 23)



(2) 日野市の昼間人口の流出と流入 (「のびゆく日野 JP. 23」の図表をもとに作成)

		日野市からの流出人口	日野市への流入人口	差し引き日野市の昼間人口の増減
服部	八王子市	10,000 人以上	10,000 人以上	増減なし
	府中市	4,000 人	1,000 人	－3,000
	立川市	2,000 人	1,000 人	－1,000
	多摩市	2,000 人	1,000 人	－1,000
	市部の中での昼間人口の増減合計			－5,000
区部	新宿区	4,000 人	500 人未満	－3,000
	渋谷区	2,000 人	500 人未満	－1,000
	千代田区	2,000 人	500 人未満	－1,500
	港区	2,000 人	500 人未満	－1,500
	区部の中での昼間人口の増減合計			－8,000

1 単元名 「日野の産業について調べよう」

2 ねらい

- ① 地理的分野『身近な地域』の学習を通して、郷土「日野」に対する関心を高め、自ら郷土のことについて学ぶ力を育てる。
- ② 郷土の学習を通して、日野の抱える産業の課題について考え、課題解決能力を育てる。
- ③ 互いに発表し合うことを通していろいろな考え方があることを知り、課題について討議する力を育てる。

3、指導計画

時	学 習 計 画	留 意 点	評 価 の 視 点
1	「日野の産業について概略を知る」 (副読本を活用) P11～P19	・ 日野の産業についての概略を知ることにより、普段何気なく生活している地域のことについての関心を高める。	・ 身近な地域を意欲的に知ろうとすることができたか。 ・ 学習を深めようとする関心が高まったか。
2	農業・工業・商業について調べるグループ分けをし、課題を設定させる。	・ 調べる方法や内容について事前に計画させることにより、学習意欲を高める。	・ 課題に対して、調査の方法や活動場所などを明確にできたか。 ・ 調査活動を円滑に進めるための話し合いができたか。
3 ・ 4 ・ 5	各グループでレポートを作成する。	・ 各自が発表用の原稿を作ることにより、自分の考えをどのように表現するかを考えさせる。 ・ 発表方法を工夫させることで、考える力・表現力を身につけさせる。	・ 最後まで諦めずに、取り組むことができたか。 ・ 主体的に活動ができたか。 ・ 自分なりの発表の工夫ができたか。 ・ 何が課題か考えられたか。
6 ・ 7	発表し合い、課題について話し合う。	・ 発表を聞き、互いに評価し合うことで課題について話し合わせる。 ・ 自分では気づかなかった新たな問題点を発見させる。	・ 課題・解決策・意見などがうまく表現できたか。 ・ 色々な考え方があることを知り、互いに意見を出し合うことができたか。

4、評価

- ①学習を通して、郷土「日野」に対する関心・愛着が深められたか。
- ②郷土の産業の特徴を知り、課題意識を持てたか。

5 考 察

本研究で作成した年間指導計画を参考に、教科学習において、郷土「日野」に密着した副読本を授業に補助資料として、または主教材として、活用することは、授業に広がりをもたらす。それにより、生徒自身が郷土との関わりを知り、郷土に目を向けるきっかけともなる。また、郷土資料館の関連資料は、教師の教材研究や「郷土日野」の深い知識と理解をもたらす一助ともなる。

教科学習において、副読本を活用することは、教師による郷土「日野」と結びつける視点を持った授業の展開をもたらす。このように日々の授業の中において、こうした「郷土日野」の結びつきが、導入や展開の中で行われることで、生徒の郷土に対する愛着と誇りを育むこととなる。その際、本研究の年間指導計画が大きな力となると考える。

おわりに

今年度は、社会科における訓読本の活用を研究し、副読本と郷土資料館資料とを結びつけた年間指導計画を作成した。まだ、研究の端緒についたばかりであり、今後とも、活用がしやすいように改善を重ねていく必要がある。この年間指導計画により社会科の授業で訓読本の活用が進み、授業での幅の広がり、子どもたちが郷土意識を持ち、先生方が郷土教育に目を向けることを願うものである。

事例5 校章・校歌の活用

市内のどの学校にも、校章・校歌が制定されている。

校章は学校のシンボルとして、校歌は学校の地域性や、目指す児童・生徒像を高らかに表現している。従って、校章・校歌は所属している児童・生徒にとどまらず、地域の人々にとっても「わが校」への愛着や誇りでもある。

ところが、校章・校歌の存在はきわめて当たり前のことであり、日常的に扱われてはいるものの、校章のデザインに込められた願いとか、校歌の歌詞から読み取れる地域の学校への期待等、改めて考えたり、調べたりすることを授業として扱うことは少ないのが現状であろう。

校章・校歌を丹念に扱い、その意義を考えさせることは、学校への愛着を一層深めたり、誇りに思う気持ちを高めたり、郷土愛にも発展できるものと考えられる。校章・校歌は子どもたちが“郷土日野”を意識する一歩として適切な、身近な郷土教材なのである。

そこで、例えば、開校記念日の事前事業や、新学期の機会をとらえて、特別活動の時間の学級指導として、在校中に少なくとも一度は校章・校歌を扱う「授業」を提案したい。

ここでは、小学校中学年以上の学年で扱うこと想定した事例を紹介する。各校においては学年や学校の地域性・特色等を考慮して、さらに具体的な肉付けをして扱われることを期待する。

<学習の展開例（1～2時間扱い）>

○学習のねらい 校章・校歌には、地域の自然や風土、地域で豊かに育まれていく子どもたちへの夢や願いが込められている。校章の図案、校歌の歌詞の内容を扱うことで、学校を愛する心、よりよくしようとする心を育て、学校の一員として校風づくりに積極的に取り組もうとする自覚を深める。

1 校章を扱った展開例

	学 習 活 動	留 意 点
導 入	○「校章」のデザインを想起しながら各自で描く。 ○各自で描いたものを見せ合う。	○「校章」への関心を高めるために、「校章」をどの程度認識しているかを自覚させる。
展 開	○「校章」の実際のデザインと、各自が描いた作品を比べ、修正する。 ○「校章」の由来について説明を聞く。	○「校章」のデザインをもとに、いつ、だれが、どんな思いで考案したか、その思いがどこに表現されているか等についての情報を提供する。 ○資料 校章の図案
ま と め	○「校章」のデザインについて感じたことを話し合う。 ○「校章」について感想を書く。	○デザインの表現だけにとどまず、デザインに込められた願いにふれて話し合い、「学校への思い」が書かれるように配慮する。

2 「校歌」を扱った展開例

	学 習 活 動	留 意 点
導 入	○「校歌」の歌詞を、全文、各自で書く。 ○実際の歌詞と比べ、正しく修正する。	○「校歌」への関心を高めるために、1 番だけではなく全部を書かせる。 ○資料「校歌」 ○間違ったところ等を発表させてもよい。
展 開	○歌詞の言葉について説明を聞く ○歌詞から次の事項を見つける。 ・学校の地域性 ・学校の誇り ・児童、生徒への期待 ○事項ごとに見つけたことを発表し合い、歌詞の意味の説明を聞く。	○歌詞の意味の不明な言葉を解説する。 ○各々の事項について、1 つか 2 つの事例を指摘して見つけやすくしてから作業させる。 ○歌詞に込められた願いや思いを強調しながら解説する。
ま と め	○「校歌」を調べてみて、学校について感じたことを書く。 ○「校歌」を斉唱する。	○学校への愛着心が表現されるように書く内容を指示する。 ○学校に誇りをもって歌う。

<学習指導要領「内容項目」との関連>

小学校社会科

- 第 3 学年及び第 4 学年目標（2） 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- 第 3 学年及び第 4 学年内容（5） 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

小学校道徳

- 第 3 学年及び第 4 学年内容 4－（4） 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。
- 第 5 学年及び第 6 学年内容 4－（6） 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。

＜单元名 第5学年社会科 自動車をつくる工業＞

第一次世界大戦（1916－1918）後の好景気が終わり、昭和を迎えた日本は急激に不況となった。この不況は、都会では就職難、失業者を生み、農村では農村不況といわれるまでの様相となった。

昭和7年度	日野町の納税状況	町税予算額	2 5 7 9 9 円
		納税済額	7 2 5 5 円

昭和12年以降、六櫻社（現コニカ）、東京自動車（現日野自動車）、神戸製鋼、富士電機の日野五社が進出。町の財政も次第に豊かになり、全国的にも豊かであることが知られた。現在の基は、当時のこうした為政者による工場誘致の実現にあると考える。

見学等で、日野自動車工場を学習教材として計画化する際、郷土日野の基となったその歩みと合わせて日野五社にもふれ、当時の人々の思い、将来を見据えた町づくり構想について考えさせたい。

年号	西暦	日野に工場ができた	日本の主な社会の動き
昭和の時代	1933 頃	当時の有山町長「これでは仕方がない。東京の大きな工場を誘致して現状打開を図ろう」と考えた。	昭和恐慌（給料の未払い、失業者の増加、欠食仕置等）
	1936	古田時計店操業開始（後のオリेंट時計）。日野、七生、多摩、立川、八王子等から従業員を募集（約 700 名）	
	1937	羽田ヒューム管操業（特に排水用コンクリート管）。	
	1937	六桜社（現コニカミノルタ）操業。	日華事変
	1941	東京自動車工業株式会社（現日野自動車）操業。陸軍特殊車両の専門工場として。	
	1943	神戸製鋼所操業（後の神鋼電機）。航空用発電機を作る。	第二次世界大戦
	1943	富士電機製造操業（現富士電機製作所）。発電機等。	
	1945		ポツダム宣言受諾日本憲法公布テレビ放送開始
	1953 頃	日野町工場誘致奨励に關する条例等を制定。平山台地域の開発を計画（現旭が丘）。	
	1960	帝人株式会社操業。医薬品の開発をする。	レジャーブーム消費ブーム
	1962	千代田自動車工業操業。	
	1964	雪印乳業操業開始（現日本ミルクコミュニティ）。	オリンピック東京
	1964	東芝操業。電話機等の製造。	東海道新幹線開通
	1965	トンパン・ムーア・フォームズ操業。ビジネス機器製造。	
	1967	東京電子工場操業。電子システム製造。	
1968	日野オフセット印刷操業。		
1972	ファナック操業。ロボット等の商品開発	日本万国博覧会開催	

1 5 学年・社会科・自動車をつくる工業（全 15 時間）

2 単元の見目

①教科がねらう目録

わが国の工業生産が国民生活に果たしている重要な役割について考えるようにする。また自動車工業に従事している人々が、原材料の確保や製造の過程、新しい技術の開発、資源の有効な利用と確保、環境安全への取り組みなどにおいて、様々な工夫や努力をしていることをとらえる。

②郷土学習がねらう目録

日野市内にある日野自動車工場を見学し、学習を通して、地域の施設が身近に感じるとともに、愛着を育てる。また、日野市に大きな工場（日野自動車工場など）ができた経緯をとらえ、日野の町づくりの歴史についての興味を育てる。

3、単元の指導計画

時	おもな学習活動と内容	留意点・資料
1	○工業製品を見つけ発表する。 ○工業製品の便利、快適さについて考える。	
1	○自分の好きな自動車を話し合い発表する。 ○自動車の部品にはどんなものが使われているのか発表する。	☆児童の発言に合わせて、自動車の絵を黒板に描いていき、部品を出させる。
1	○日野自動車では、1日に何台作られているか、何種類の自動車を作っているかを予想する。 ○教科書の組み立てライン、検査の写真を見て不思議なこと、分かったこと、発見したことを発表する。	☆実際の見学でも児童がスムーズに不思議なこと、分かったことを発見できるようにここで様々な意見を発表させ、褒める。
1	○しおりに自分が最も知りたいこと・疑問を記入し、その予想をたてる。	
1	○日野自動車見学 ・見学を通して自分の課題の答えを見つける。さらに不思議なこと、分かったことを探す。	☆しおりには児童の発見を助けるような着目点を書く。（ヘルメット、紐、掲示板、など）
6	○1学期の農業の学習（農業に携わる人々の工夫や努力）を振り返る。 ○見学を通して、分かったこと、発見したことを発表する。 いくつかのグループに分かれ、工夫や努力について調べる。 （教科書、資料集、インターネット、本、パンフレット） ○発表の準備、練習をする。 （模造紙、劇、紙芝居、クイズなど）	☆キーワードを確認する。（品種改良、機械化、共同作業、保管、輸送など） ☆さらに聞きたいことなどが、電話や手紙でお話をお伺いできるように、事前に日野自動車に手配をしておく。 ☆日野自動車以外の、自動車工場の工夫や努力についても調べるよう促す。 ☆何のための工夫や努力か考えさせる。
3	○グループごとに発表する。 ○働いている人々の願いを考える	
1	○資料を読む。 ○どのように大きな会社が日野町にできたかの経緯をまとめる。	☆資料1 日野に工場が進出した頃 資料2 近代産業の萌芽～新撰組から自由民権、そして殖産興業へ～

4、使用した資料 市制 40 周年記念企画展「大工場がやってきた」ふるさと博物館作成

<単元名 第6学年東京オリンピックと新しい日本>

七生丘陵の開発

高度経済成長期において、東京オリンピック以降、郊外の発展には著しいものがあった。それは、戦後の人口増加と生活程度の向上により住宅の供給が追いつかない状況を迎え、地価は高騰。住宅建設は都心から離れた相模原、日野、所沢等へと広がった。

七生丘陵にも宅地造成の波が押し寄せ、昭和30年代後半には第一武蔵台（電建）、三井住宅、南平台、第二武蔵台（明星）等の造成が始まる。昭和44年には百草台団地の入居開始、続いて高幡台団地の入居が始まる。緑豊かな丘陵に開かれた静かな住環境は人気を集め、昭和48年頃になると南平や平山の丘陵地の宅地造成が行われた。

昭和33年に開園した多摩動物公園は、起伏に富んだ七生丘陵の地形を生かした自然の中の動物園として、世界的飼育技術の優れた動物園として、時代の変化に合わせた様々な工夫、努力によって現在にいたる。当時（昭和26年8月17日の七生村広報には、「自然動物園設置準備進捗す」という見出しで、当時の思いが語られている。

「即ち七生村は単に東京都の七生村ではなく日本の七生村として天下にその存在が認められることになる訳で私の如く本村に生を享けたものは申すまでもなく現在居住する、村民各位の大に誇りとするに足るるものであると思う。」

戦後の復興から20年にならんとするときに開催された東京オリンピックの意義を考えさせる上で、七生丘陵の開発を扱うことは、当時の世の中の動きをより身近なものとするだけでなく、そこに暮らす一人として郷土への愛着を感じるようになると思う。



昭和43年 開発中の百草団地



平成2年ころの百草団地

1 6年社会科「東京オリンピックと新しい日本」（全7時間）

2 単元の目標

①教科がねらう目標

- ・戦後に行われた東京オリンピックとその当時の様子を調べることを通して、国民の不断の努力によって国民生活が豊かになり、国際社会にも重要な役割を果たしてきたことが分かる。

②郷土学習がねらう目標（郷土意識の育成、郷土資料活用）

- ・東京オリンピックや百草団地を始めとしたその当時の様子を調べることを通して、地域の開発が進んでいったことに関心をもつ。

3 単元の指導計画

	ねらい	主な学習活動・内容	・学習資料
つかむ	東京オリンピックの開催や当時の社会の様子に関心を持つ。	①東京オリンピックとはどのような大会であったかを調べる。	・ 当時の新聞 ・ 写真 ・ 雑誌
	東京オリンピックと社会や生活との関連に気付き学習問題を持つ。	②東京オリンピックの様子や、そのころの生活や社会の変化の様子について年表にまとめ、学習問題を作る。	・ 終戦直後とオリンピックのころの写真 ・ 保護者へのアンケート
	東京オリンピックをきっかけに人々の生活はどのように変わったのだろうか？		
調べる	計画に沿って調べ東京オリンピックのころの世の中の様子についてとらえる。	③本やインターネットなどを活用して調べる。 ④コミュニティティーチャーから東京オリンピックや百草団地の開発のころの生活の様子を聞き取り、当時の人々の思いに触れる。 ⑤調べたことをまとめる。	・ 家の人への聞き取り。 ・ インターネット ・ 資料CD ・ 図書資料 ・ コミュニティティーチャーへの聞き取り
まとめる	調べたことを報告し合い、当時の人々の思いや願い・働きについて考える。	⑥調べたことを報告する。	・ 児童がまとめたワークシート
広げる	これからどんな日本・東京にしていきたいか考える。	⑦東京オリンピック後の日本の変化について調べ、現在の日本の課題について考える。	・ 教科書 ・ 資料集

*コミュニティティーチャーについては、当時の百草団地周辺の開発の様子や当時買った家電のこと、団地が最先端の暮らしであったこと、入居の当選の難しさなどについてお話していただいた。

資料

日野市郷土資料館小中学校のための利用案内（平成 18 年版）

日野市郷土資料館は、日野の歴史・民俗・自然などに関する資料を管理し、調査研究、展示、講座、体験学習会といった活動を行っています。また、学校教育の現場で活用できる資料を蓄積し、児童生徒が実物資料に出会う機会を提供しております。小中学校の学習活動のための郷土資料館利用方法を案内いたします。紹介した例のほか、力になることがありますので、どうぞお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・ご相談は 郷土資料館の学芸員まで TEL042-592-0981
打合せなどでご来館の際には、事前連絡をお願いいたします

【利用案内】

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

休館日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始、臨時休館

入館料： 無料

交通：「高幡不動駅」①番乗り場バス 百草団地方面行「高幡台団地」下車徒歩 5 分

「高幡不動駅」から徒歩 20 分 / 多摩モノレール「程久保駅」下車徒歩 7 分

駐車場：一般車両用 29 台分。大型バスの場合はご相談ください。

〒191-0042 日野市程久保 550 TEL：042-592-0981 FAX：042-594-1915

E-mail：museum@city.hino.tokyo.jp

URL：<http://www.city.hino.tokyo.jp/museum/>

【団体見学】

①電話予約：見学日時、人数、引率者名、見学の目的や内容、解説の有無など希望をお知らせください。原則として先に申し込んだ学校を優先します。

②下見と打合せ：施設や資料を見ながら見学の方法や打合せを行います。展示室で一度に説明ができる人数は 30～40 名までです。人数が多い場合は 2 組に分かれて案内します。児童生徒が資料を手にとる体験を交えた見学も可能です。展示中ではない資料をご希望の場合は、遅くとも 1 週間前までにお願いいたします。

③見学：上履きの持参をお願いします（スリッパ貸出しは人数により可能）。事前に公共の場でのマナー指導をお願いいたします。

【資料の貸し出し】

歴史・民俗・自然、考古などの各分野の資料を貸し出しいたします。遅くとも 1 週間前までにご連絡をください。

①電話予約：希望する資料、借用希望期間、下見のご来館予定日をご連絡ください。

②下見と打合せ：実物をご覧いただき資料を決定します。希望が重なった場合は、先に資料を決定した学校を優先します。「日野市郷土資料館貸出申請書」用紙をお渡しします。書類の提出は交換便でも可能です。

③貸出し・返却：貸出し期間は原則 1 週間です。貸出・返却は申請書に記入した「管理責任者」が行ってください。管理責任者の方に注意点を説明いたします。資料は市民の貴重な共有財産です、取扱いには十分ご配慮いただくようお願いいたします。

【出張展示・出張授業】

地域の自然、歴史、民俗などについて、学芸員が各種資料を持参して説明することができます。

また、観察会や史跡案内など、野外で児童生徒に説明することもできます。

【調べ学習】

「調べ学習」の場として資料館を活用する場合、課題の目的や内容を事前にお知らせいただければ、通常は展示していない関連資料や参考図書を用意するなど、児童生徒への対応が充実します。

【職場訪問・職場体験】

郷土資料館の職場体験をするグループ（6名程度まで）を受入れます。また、職場訪問として施設案内や博物館の仕事について児童生徒への説明を行います。

【その他】

子どもたちの学習に活用できる資料の有無、歴史や自然などに関する問い合わせなどには随時お答えいたします。お気軽にご相談ください。

※「日野市郷土資料館」は、「日野市ふるさと博物館」を前身とし、平成17年4月29日に「日野市郷土資料館」として新規に開館しました。神明にありました旧ふるさと博物館施設は「新選組のふるさと歴史館」となっています。

＜参考資料＞ 日野市立新選組のふるさと歴史館 について

〒191-0016 日野市神明 4-16-1 TEL：042-583-5100

URL <http://www.city.hino.tokyo.jp/museum/>

新選組や幕末を中心とした展示を開催しています。また、新選組以外のテーマで、日野に関する展示を行うこともあります。

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：大人200円、小人50円（市内在住・在勤・在学者及び団体）

※市内小中学校の学習活動の場合、申請により観覧料が免除

休館日：毎週月曜（祝日の場合は、祝日を開館しその翌日を休館とする）、年末年始
臨時休館あり

交通：「高幡不動駅」⇔「日野駅」 往復バス停「新選組のふるさと歴史館前」
日野駅から徒歩12分

駐車場：市役所駐車場（バスの場合は事前に相談を）

出張授業・出張展示のご案内（平成18年度版）
—「出前いっちょう」と「デリバリー博物館」—

日野市教育部 文化スポーツ課・郷土資料館

文化スポーツ課と郷土資料館では、日野市の歴史・文化・自然などについてより身近に接していただくため、各分野の担当学芸員が学校などに出向いて出張授業を行う「出前いっちょう」と、資料展示を学校で一定期間開催する「デリバリー博物館」の、二つの事業を用意しています。学校での郷土学習や各教科の理解を深めるため授業、PTAや生徒会の事業でもご活用いただけます。これらの事業をお役立てくださいますよう、ご案内いたします。

出前いっちょう 実物資料を使った出張授業や野外観察指導

【概要】 「出前いっちょう」事業は、文化スポーツ課や郷土資料館の担当学芸員が、実物の資料を持って学校にお伺いし、資料の説明や実演をする事業です。また、児童・生徒の皆さんと校外に出かけ、観察会や史跡めぐりを行うこともできます。

【実施場所】 学校（教室、体育館、校庭など）や校外。

【実施日・時間】 1～3時間程度。内容を踏まえて協議のうえ決定します。

※土器・石器など教科学習に対応した見学や出張授業の依頼は同じ時期に集中します。日程調整が必要となりますので、お早めにご相談ください。

【内容】 日野市の歴史・考古・民俗・文学・自然などに関する事柄について、出張のうえ、講演や観察会の指導などをいたします。実物資料や写真パネルなどを用います。

これまでの**実施例**としては次のようなものがあります。

- ・土器・石器、火起し体験：縄文土器や石器などの解説や火起しの体験学習。
- ・暮らしの道具：戦前の生活道具の展示解説や使用方法の実演。
- ・脱穀の実演：博物館の千歯扱きや唐箕を使い、学校の水田で作った稲を脱穀。
- ・多摩川での化石探訪：多摩川の河川敷を訪れ、貝化石や生痕化石などを観察。
- ・日野市の歴史：日野市の歴史の概観や、新選組、地域の景観などについて講演。

【実施の手順】 ①申し込み →②担当者の決定 →③事前協議 →④準備作業
→⑤実施・片付け

【必要な用具】

原則として文化スポーツ課・資料館の資材や資料を使いますが、机や台などをお借りします。

デ リ バ リ ー 博 物 館 博物館資料の引越し展示

【概 要】

「デリバリー博物館」事業は、特定のテーマに基づいた展示を、教室などを利用して一定期間開催するものです。例えば、子どもたちが地域の暮らしを学ぶ時期に、学校内で「〇〇学区の歴史と暮らし」といった内容の展示をすることができます。

- ・展示の企画は共同作業 …展示内容や期間など、学校と資料館が共同して企画します。このため学校の特徴や、学習活動との関連を考慮した展示が可能です。
- ・展示の実務は資料館 …解説パネル作成、資料の運搬・展示などの実務は基本的に資料館が行います。ただし、展示作業の体験を希望する場合はご相談ください。
- ・展示解説ができる …学校からのご希望があれば、放課後や休み時間など、展示解説や質問対応をすることができます。

【実施場所】

学校の教室など。

【実施期間】

2日～1ヶ月程度で協議のうえ決定します。

【展示内容】

日野市の歴史・考古・民俗・文学・自然などに関することが基本です。資料館では下記のようなテーマを用意しているほか、『〇〇地区の歴史』といった学校や学区の特徴に合わせた企画展の開催も可能です。また、児童・生徒の皆さんが調べた内容を、実物の資料を使って自分たちで展示することもできます。

歴史系：日野宿のあゆみ／日野市の近現代 …など

考古系：縄文時代・弥生時代の暮らし …など

民俗系：日野の生活用具／日野の農具／日野の漁具／丘陵地帯の道具

文学系：異聖歌／ごんぎつね・新美南吉／たぬきの糸車

自然系：雑木林の自然／日野の化石／日野の野鳥や昆虫／貝のいろいろ

※これらを組み合わせることもできます

【実施の手順】

①申し込み →②学校と資料館の協議（内容・開催時期・場所・協力体制などの決定）
→③展示準備 →④展示作業 →⑤展示 →⑥展示撤去 →⑦報告書の刊行

【費用・用具】

原則として資料館の資料・展示用具・資材を使うため、学校の費用負担はありません。机など校内にあるものを用いて展示を行います。

【展示資料の管理】

資料貸し出しの手続きが必要となります。学校側の責任で管理をお願いいたします。

お問い合わせ・お申し込み先：日野市郷土資料館

電話 042-592-0981

〒191-0042 日野市程久保550

市立図書館利用のご案内

児童サービスのご紹介とお願い

日野市立図書館では、ひとりでも多くの子ども達が読書の楽しみに出会えるよう、日々の活動を推し進めています。また、好奇心の旺盛な子ども達に、様々な知識や情報を提供できるように、資料の収集を図っております。先生方におかれましても、宿題・調べ学習・読書指導等で、より市立図書館を活用していただきたくご案内いたします。

お問い合わせは下記の図書館で承ります。

館名	住所	電話	Fax
中央図書館	豊田 2-49	5 8 1－7 6 1 0	5 8 6－0 5 7 9
高幡図書館	三沢 4-1-12	5 9 1－7 3 2 2	5 9 4－2 6 5 5
日野図書館	日野本町 7-5-14	5 8 4－0 4 6 7	5 8 7－0 7 8 9
多摩平図書館	多摩平 2-9 (多摩平の森ふれあい館内)	5 8 3－2 5 6 1	5 8 3－2 5 7 3
平山図書館	平山 5-18-2	5 9 1－7 7 7 2	5 9 1－7 7 7 2
百草図書館	百草 204-1	5 9 4－4 6 4 6	5 9 4－4 6 4 7
市政図書室 (行政・郷土資料のみ)	神明 1-12-1 (日野市役所内)	5 8 5－1 1 1 1 (内線 1710・1711)	5 8 2－0 9 1 4

URL <http://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>

開館時間は各館にお問い合わせください。

学校訪問

毎年、図書館職員が市内小学校の3年生のクラスを訪問し、市立図書館の利用案内・本の紹介・絵本のよみきかせ・昔話の語り等を行っております。4月はじめ、担任の先生方にご案内を送いたしますので、ご希望の日程を最寄りの図書館にお知らせ下さい。(他の学年からのご要望も、3年生が終了次第、お受けいたします。)

施設見学

社会科学習の一環として、図書館施設の見学をお受けいたします。希望日時を最寄りの図書館にお知らせください。各館、施設の規模が異なります。一学年一度に入館していただけない小規模館もありますのでご了承ください。

調べ学習

子ども達が調べ学習で使う資料を紹介します。課題に対する子ども達の認識が充分でなかったり、必要な資料を正しく伝えられなかったり、せっかく来館してくれたのに必要な本がすでに貸し出され一冊も残っていなかったということもあります。こういったことから、調べ学習の目的や詳しい内容を1週間前くらい前に教えていただけると資料の提供がスムーズにいきます。(少ない資料や一時的に集中する資料については、「館内本」としてとり置き「館内で調べて

ね」とお願いすることもあります。ご協力ください。)

蔵書検索システム

インターネットから市立図書館全館分の蔵書検索が出来ます。

団体貸出

学習に必要な図書について、学校に貸し出します。

- ・貸出し期間は、2週間です。(学習の進行に応じて4週間まで延長できます。)
- ・本を用意するのにかかる時間を見込んで、日数に余裕を持ってお申し込み下さい。
- ・市立図書館と各学校を結ぶ搬送業務を平成18年度より開始します。詳細は後日お知らせいたします。
- ・

職場体験・職場訪問

中学生以上の方の体験学習を受け入れています。一日1グループ(3~4名)です。

又、職場見学(訪問)も随時受け付けています。(土日月以外の曜日)

ジュニア・スタッフ

夏休みに図書館の仕事を体験したり図書館HPやOPAC(蔵書検索パソコン)の使い方を学ぶジュニア・スタッフを募集します。(対象は中学生)7月に、広報ひのや学校にお配りするポスターでお知らせしますので、ふるってご参加ください。

読書相談

新刊図書の情報など、本に関する事はお気軽にご相談ください。

授業時間に来館される場合

グループあるいはクラス単位で授業として来館される場合は、1週間前にお知らせください。必要な資料をあらかじめ用意いたします。

- ・当日借りたい本は、個人の貸出カードで貸出します。(期限は2週間です。)
- ・館内にはコピー機があります。(1枚10円です。)
- ・公共施設利用にあたってのマナーをあわせてご指導いただけると幸いです。

<おわりに>

地域環境の再構築が求められています。こうした時、学校関係者において郷土教育の果たす役割の重要性を再認識するための糸口となることを願っての推進研究の1年でした。

私たちは地域社会の様子をじゅうぶん熟知していると思っていっても、ふるさとの歴史を語る証となるものについては、意外と知らないことが多いものです。なぜならば、自然や、史跡・文化財等は、物いわずに静かに、ひっそりたたずんでいます。

是非、この指導事例“第1集”に目を通していただきまして、指導者自らが郷土教材に関心をもち、関係者を尋ねたり、当時の人々の思いや営みに思いをめぐらしたりする等、郷土日野を実感してもらい、児童・生徒に語っていただきたいです。

郷土日野に関するこれまでの市内の研究実績や、郷土教材の収集・開発及び活用に関する調査等をふまえ、「日野の特色を生かし、市内どの学校でも活用できる」内容を考え、作成した指導事例集です。活用されてのご意見、ご感想を是非お寄せ下さい。修正を重ね、より活用しやすい事例集をつくることが、日野市の郷土教育の充実・向上を図るものと考えております。

郷土について学んだ児童・生徒から、身近な郷土を知ったことへの驚きや満足感、郷土を学ぶことへの意欲が伝わってきます。

<児童・生徒の声（各々一部紹介）>

- 1 学校の外に出て、いろいろの所を回ってはじめて気がついたことがあり、行って見てよかったです。こんなに歴史に関係するものが学校の周りにあって、歴史を知ることができる場所に住んでいて、とっても幸せなんだと思いました。
- 2 私の家の近くにある日枝神社には、いつもふつうに遊びに行っていたのに、話を聞いて、長い歴史がよくわかりました。とってもいい経験になりました。このことをきっかけに、もっと日野の歴史について調べてみようと思います。
- 3 豊田の方は歴史が浅いと思っていたのですが、歩いて歴史を知っていくうちに、こんなにも歴史があるのかなと思ったので、とってもよかったです。僕は南平に住んでいますが、僕のお母さんも、お父さんも、おじいちゃんもピンヘッド山のことは知りませんでした。

このように郷土の学びを通して、“忘れがたきふるさと”となり、“思いいずるふるさと”“水はきよきふるさと”と、かつて小学校で歌われていた唱歌「ふるさと」のように、児童・生徒の心に深く刻まれていくことを期待したいです。

現在、特色ある学校づくりの視点や、総合的学習の時間の授業において、地域教材を活用した教育活動が多く実施されてきています。これらを踏まえて、日野市における郷土教育の一層の充実を図るための推進研究を行っていきたいと思っております。

最後になりましたが、指導事例集作成にあたりまして、多くの方々から力強いご援助・ご協力を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。

平成18年3月 郷土教育推進研究委員会

郷土教育推進研究委員会

委員長	小杉博司	(日野一小校長)			
副委員長	秋山譲児	(日野四中校長)			
委員	古原涼子	(日野二小教諭)	鎌田博志	(平山小教諭)	
	横田富信	(百草台小教諭)	山形慎一	(日野七小教諭)	
	高橋清吾	(日野二中教諭)	益田俊隆	(大坂上中教諭)	
	清水敬造	(日野四中教諭)	金野啓史	(郷土資料館学芸員)	
	峰岸未来	(郷土資料館学芸員)	会田満	(学識経験者)	
	古家新一	(教育委員会指導主事)	齋藤正子	(教育センター所員)	
	吉野美智子	(教育センター所員)			

「郷土日野」指導事例 第1集

発行日	平成18年3月31日
発行	日野市立教育センター 郷土教育推進研究委員会
印刷	システム印刷株式会社 591-1411

(裏表紙)

